

令和7年度第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○ 令和7年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿	.. P 1
○ 松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱	.. P 2
○ 【資料1】 令和6年度第3回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要	.. P 3
○ 【資料2】 松阪地域の県立高等学校について(令和7年度)	.. P 5
○ 【資料3】 松阪地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況	.. P 14
○ 【資料4】 松阪地域の中学校卒業生進路先の推移	.. P 15
○ 【資料5】 令和7年度の協議について	.. P 16
○ 【資料6】 松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について	.. P 19
○ 【資料7】 令和4～6年度の協議(主な意見)	P 26
○ 【資料8】 令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ	.. P 32
○ 【資料9】 次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて	.. P 36
○ 【資料10】 松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)	.. P 37
○ 【資料11】 松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測	.. P 38
○ 【資料12】 松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)	.. P 39
○ 【資料13】 松阪地域の全日制高校の学びの配置状況(令和8年度)	.. P 40
○ 【資料14】 松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒)	.. P 41
○ 【資料15】 県立高等学校(全日制)への通学時間の目安	.. P 42
○ 【資料16】 松阪地域の県立高等学校(全日制)への交通手段等	.. P 43
○ 【資料17】 学校規模と教育環境について	.. P 45
○ 【資料18】 令和22年度までの松阪地域の県立高等学校(全日制)の総学級数について	.. P 47

令和 7 年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

N o		所属及び名前	新・継
1	学識経験者	三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春	継続
2	地域有識者	松阪商工会議所 事務局次長 井村 彰	継続
3		多気町商工会 事務局長 高橋 勝利	新規
4		大台町商工会 事務局長 上岡 万紀子	継続
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会 教育長 中田 雅喜	継続
6		多気町教育委員会 教育長 小林 真一	継続
7		明和町教育委員会 教育長 下村 良次	継続
8		大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久	継続
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校 校長 井ノ口 誠充	継続
10	小中学校長代表	松阪市立殿町中学校 校長 尾崎 充	新規
11	小中学校 P T A 代表	松阪市 P T A 連合会 代表 川端 賢一	新規
12		多気郡 P T A 連合会 代表 積木 利昌	新規
13	高等学校 P T A 代表	松阪地区高等学校 P T A 連合会 代表 清水 竜也	継続
14	小中学校教職員代表	松阪市立東部中学校 教諭 山際 健太郎	継続
15	高等学校教職員代表	県立相可高等学校 教諭 富安 道伸	新規

松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、松阪地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、松阪地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の松阪地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 松阪地域の県立高等学校活性化の方策に関すること
- (3) 施設・設備に関すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は令和5年 1月18日から施行する。

令和 6 年度第 3 回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 7 年 1 月 2 9 日（水） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 3 0 分まで

2 場所 三重県松阪庁舎 大会議室

3 概要

1 5 年先の松阪地域の県立高校の学びと配置のあり方についての協議や、松阪地域の中学生と保護者へのアンケート結果をふまえ、「令和 4 ～ 6 年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ～今後の学びと配置のあり方について～」(案) について、協議しました。

主な意見は次のとおりです。

《令和 4 ～ 6 年度の本協議会における協議の小まとめ(案)について》

(1) 学校規模について

- 中学校において部活動の地域移行の議論や取組が進む中、高校における部活動の維持・活性化がどのように進んでいくのかをふまえ、議論する必要があるのではないか。
 - 小中学校において 3 5 人学級の実現が進んでいることから、中学校卒業者数の減少に対して、学級減で対応する前に、1 学級 4 0 人となっている定員を減らすことで対応することを検討してはどうか。
 - 4 0 人学級を前提としていることが、子どもたちの学びにとって課題となっているのであれば、高校における 3 5 人学級の実現について、当協議会から提言を出していてもよいのではないか。
- ⇒ (事務局) 県教育委員会としても、1 学級 4 0 人となっている学級編制標準の引下げについて、国に対して要望しているところである。
- 単に数合わせで議論するのではなく、特別な支援を必要とする生徒や不登校傾向にある生徒など、多様な背景をもつ生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にするという視点を加筆する必要があるのではないか。
 - 多様な背景をもつ生徒に寄り添う内容を記載する点には賛成だが、大規模校においても大切な視点であることから、3 学級以下の高校についての項に加筆するのではなく、新たに項を起こして記載したほうがよい。
 - 3 学級以下の高校についての議論をする上で必要なのは、「他地域の小規模校の教育実践を注視」することよりも、当地域の小規模校の教育実践を注視していくことと、他地域の協議会における小規模校の議論の動向を注視することなのではないか。

(2) 学びの選択肢について

- 子どもたちが高校選びに困らないよう、多くの選択肢を維持していくという原案の内容に賛成である。
- 学びの集約化について、「学科の枠を越えた連携も視野に入れながら」の部分、より分かりやすく、具体的に表現したほうがよい。
- 小規模校から大学へ進学し、社会で活躍している卒業生も多い。子どもたちの思いや願いをふまえた学びが充実し、それがキャリアにもつながる学びの選択肢が、この地域にはあるということを念頭に、さらに協議を進めていきたい。
- 総合学科については、具体の校名を挙げて記載されているが、統合ありきと捉えられることがないような表現に修正したほうがよい。

(3) 今後の協議の進め方について

- 学級減への対応方針については、今回出された「学校規模」と「学びの選択肢」についての意見をふまえて、加筆修正してもらいたい。
- 15年先を見据えた方向性を取りまとめるためには、校舎の老朽化も念頭に置く必要があるのではないか。次年度以降に、関係する資料を提示していただきたい。
- 当協議会の方向性を示す必要があるとされる「遅くともその3年前までには」の表現は、期限が不明確であるため、分かりやすく表記する必要があるのではないか。

松阪地域の県立高等学校について（令和 7 年度）

1 全日制課程

- ・ 松阪高校 (松阪市) 普通科(200)、理数科(80)
- ・ 松阪工業高校 (松阪市) 工業化学科(40)、機械科(40)、繊維デザイン科(40)、
自動車科(40)、電気工学科(40)
- ・ 松阪商業高校 (松阪市) 総合ビジネス科(120)、国際ビジネス科(40)
- ・ 飯南高校 (松阪市) 総合学科(80)
- ・ 相可高校 (多気町) 普通科(80)、生産経済科(40)、環境創造科(40)、
食物調理科(40)
- ・ 昴学園高校 (大台町) 総合学科(80)

2 定時制課程

- ・ 松阪工業高校 (松阪市) 普通科(40)

3 通信制課程

- ・ 松阪高校 (松阪市) 普通科(200)

○ 課程

- ・ 全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・ 定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・ 通信制：通信による教育を行う課程

○ 学科

- ・ 普通科：普通教育を主とする学科
※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科
(学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など)
- ・ 専門学科：専門教育を主とする学科
【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科
など職業教育を主とする学科
【普通科系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など職業系
以外の専門教育を施す学科
- ・ 総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

令和 7 年度 松阪高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を輩出する、地域から信頼される進学校

< 自主自律 >

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

< 知・徳・体 >

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心的な担い手となる人を育てます。

< 高い志 >

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色 （理数科 2 学級＋普通科 5 学級）

松阪市民から「南高(ナンコウ)」または「松高(マツコウ)」と呼ばれ、親しまれている歴史と伝統のある学校です。充実した学習指導と的確な進路指導のもとで自己実現に必要な力を養うことができ、「自主自律」の校訓のもと、学校行事や部活動にも一生懸命に取り組むことができる、文武両道の充実した学校です。

『松高力』で夢を現実に！！

【文部科学省 SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）指定校】

令和 3 年度から 5 年間、新たにⅢ期目の SSH の指定を受け、時代のニーズに対応した、「国際舞台で通用する課題探究能力育成プログラム」の開発を教育課程に位置付けて行っています。普通科・理数科の生徒全員を対象に「探究活動」を行い、生徒自らが設定したテーマをとことん追究する中で、一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓くことができる力＝松高力を育成しています。新しい大学入試では「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が求められており、本校では SSH での取組で探究する力を育成し、この力を各教科で生かすことで、新しい大学入試のありようにしっかりと対応しています。

【理数科】

学問をより深く追求するための創造力・探究心を養い、科学的思考力を持った人間性豊かな人材を育てます。そのために、より幅広く興味と関心を持ち、将来めざす学問について考える機会となるように、講演会や大学・研究施設の見学会、大学の研究室訪問を実施しています。土曜日は課外授業を実施しています。また、1・2 年生は夏休みに夏期研修があります。

【普通科】

基礎的な学習をとおして幅広い学力を獲得し、人間性豊かで知性溢れる人材を育てます。全学年にわたり、夏休みや放課後の課外学習などを充実させ、きめ細かい指導を行うことで学力の向上を図っています。多様な学びをベースにして、自己実現を的確に支援するキャリア教育により、夢に向かう目的意識とそれを実現する確かな学力を養います。また、希望者には土曜課外授業を実施しています。

令和 7 年度 松阪高校（通信制）の特色

1 めざす学校像

○生徒一人ひとりの学びを支援し、生徒・保護者・地域から信頼される通信制高校
 ＜自主自律＞

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自学自習をとおして、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

＜知・徳・体＞

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、それぞれの立場で地域社会に貢献できる人を育てます。

＜高い志＞

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色 （普通科）

Design Your Own Dream ～あなたの夢を描こう～

●通信制ってどんなところ？

- ・働きながら自分のペースで学習できます。
- ・さまざまな年代の方が入学し、卒業を目指しています。
- ・授業は月 2 回程度の日曜日のスクーリングです。基本的には自宅で学習します。
- ・転編入生は、前に在籍していた高校の修得単位が一定の条件で認められます。
- ・学ぶ年数は 4 年間です。頑張り次第で 3 年間での卒業も可能です。

●いつでも！どこでも！だれでも！

自学自習が基本なので、自分のペースで勉強できます。また、スクーリング以外の平日でも学校で勉強したり、先生から直接アドバイスをもらったり、電話やメールでの質問も可能です。

学ぶことに遅いということはありません。年齢に関係なく誰でも学ぶことができます。

●学習システム

- ・報告課題(レポート)・・・レポートを提出し、先生から添削指導を受けて学習を進めます。
- ・面接授業(スクーリング)・・・登校日は月 2 回程度(日曜日)
- ・テスト・・・各科目年 3 回
- ・特別活動・・・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動など 年 10 時間以上

【松高通信の主な学校行事】

学校行事等への積極的な参加を促して、学校生活の充実を図り、学習意欲の向上に結びつけています。遠足、体育祭、南伊勢地域でのフィールドワーク、生活体験発表会、定通交流スポーツ大会、卒業生を送る会などがあります。

令和 7 年度 松阪工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- これからの社会に必要とされる資質・能力を高め、地域で活躍する人材を育成する学校
- 専門学科における知識、技術の習得や高度な資格の取得に取り組むとともに、それらを実践的に活用できる人材を育成する学校

2 学校の特色（工業化学科、機械科、繊維デザイン科、自動車科、電気工学科各 1 学級）

- グラデュエーション・ポリシー
 - 自ら考え、判断・決定し、行動する力を身につけた生徒。
 - 基礎・基本を大切にし、自分を律しながら学び続ける生徒
 - 他者と協働しながら、目標に向かって粘り強く挑戦する生徒
- 明治 35（1902）年に工業学校として開校し、校舎の特徴から「赤壁（せきへき）」と呼ばれ多くの人に親しまれる、120 年を越える歴史ある学校です。
- 学科別に専門性の高い学習を進め、3 年生では課題研究や卒業制作に取り組みます。近年は、学科の枠を超えて、学びを統合した課題研究等にも挑戦しています。12 月には繊維デザイン科卒業制作展、1 月には 4 科（工業化学科、機械科、自動車科、電気工学科）が成果発表会で、課題研究や学習の成果を発表します。
- 令和 6 年度からは DX ハイスクールとしてデジタル人材の育成に取り組んでいます。

（1）各科の特色

- 《工業化学科》「素材」の視点から「ものづくり」に必要な化学的知識・スキルの学習とともに、「環境」問題の改善に関する知識・技術や考え方等についても学習します。危険物取扱者や毒物劇物取扱責任者などの資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】
- 《機械科》「ものづくり」の基礎となる機械の設計・制作から、NC 工作機械やロボットを中心とした各種自動化システムまで、広範囲な内容を学習します。二級ボイラー技士や各種三級技能士など現場で役立つ資格を取得します。
- 《繊維デザイン科》デザインについて、「デザイン思考」をはじめ「ものづくりの原点」として幅広く学びます。卒業後は進学する生徒も多く、美術・芸術大学への進学もサポートします。業界や地域社会からデザイン依頼も多くあります。【県内唯一の学科】
- 《自動車科》「一種自動車整備士養成施設」として国土交通省から指定を受けており、学科試験だけで三級自動車整備士（総合）の資格を取得することができます。溶接やパソコンなど自動車に関わる機械・電気系の資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】
- 《電気工学科》電力の発生から輸送、応用技術や情報技術など幅広い電気・電子工学の分野を基礎から応用まで学習します。難関資格「第 3 種電気主任技術者」をはじめ資格取得にも積極的に挑戦しています。資格を利用し、地元国立大学や有名私立大学に毎年進学しています。

（2）部活動

県の強化指定を受けているバレーボール部をはじめ弓道部やレスリング部など全国レベルの運動部、工業高校ならではのロボット部やソーラーカー部、工業化学研究部など生徒の興味関心に応える 27 の部が活動しています。

令和 7 年度 松阪工業高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

多様な教育的ニーズに対応し、地域とともにある学校

2 学校の特色（普通科 1 学級）

【グラデュエーション・ポリシー】

- 人生を切り拓くために必要な知識と技能を身につけようと学び続ける生徒
- 自己肯定感を高め、多様性を理解し協働することができる生徒
- 相手の立場を尊重し、思いやりを持って、コミュニケーションできる力を備えた生徒

【カリキュラム・ポリシー】

I 自己実現を目指した取組

個に応じた指導の充実により、基礎学力の向上と主体的に学びに向かう態度を身につけさせる教育活動の推進

II 自立心を持った生徒の育成

キャリア教育を推進し進路選択に対する意識を高め、幅広い視野を持ったコミュニケーション能力の向上と自立できる力を育成

III 社会に参画する力の育成

多文化共生の学習や日本語指導等、社会に参画し将来活躍できる学習活動の充実

- (1) 働きながら学べる夜間定時制として昭和 23（1948）年に設置され、多くの卒業生が社会で活躍しています。
- (2) 17 時 30 分から 20 時 55 分（月曜日は 21 時 30 分）までの 1 日 4 限授業の普通科単位制です。
- (3) 通信制との併修により 3 年間で卒業することもできます。
- (4) 卒業後の進路は就職が多いですが、四年制大学に進学する生徒もいます。
- (5) 生徒の半数以上が外国につながる生徒です。国籍の異なる生徒が、お互いを認め合い、協力しながら一緒に学んでいます。
- (6) 日本語の習得に対して、外国人生徒支援員の配置や習熟度別授業の実施、日本語能力検定へのサポートなどきめ細かな指導を行っています。
- (7) 「学びなおし」等に対応するため個別指導の充実・基礎学力の定着を重視した授業、学ぶ意欲を高める学校行事等に取り組んでいます。
- (8) 少人数を活かし、関係諸機関や専門的外部人材とも連携し、個々の生徒に応じた支援やソーシャルスキルの向上を支援しています。
- (9) 職業選択能力や、勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育・人権教育を推進しています。

令和 7 年度 松阪商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「生徒・教職員が誇りをもち、保護者・地域から信頼される学校」

- ・起業家マインドを持ち、自ら課題に気づき、解決に向けて考え、行動力を高め、卒業後の次のステージに臨もうとする生徒の育成をめざします。

2 学校の特色 （総合ビジネス科 3 学級＋国際ビジネス科 1 学級）

- ◎正解のない課題に向き合い、従来の発想にとらわれない問題解決型の学習を実施しています。情報機器を活用し、社会問題に対して「問い」を立て、他者と協働して解決に向けた実践を行う「ビジネス探究プログラム」を 3 年間かけて展開します。
- ◎単位制を導入し、少人数・習熟度別講座を設けてきめ細かい指導をすすめます。多様な価値観を認め合いながら「考える力」「行動力」「質問力」「表現力」「ねばり強さ」などの育成をめざしています。
- ◎部活動への加入率が高く活発です。また、ビジネスの基礎となる挨拶・礼儀・マナー等の生活習慣について、日常の学校生活を通じて定着に努めています。

3 学科の特徴

- 【総合ビジネス科】…「商業の知識・技術を習得し、地域社会で活躍できる人材の育成」
 - ・マーケティング・会計・情報の分野を幅広く学び、商業と情報に関する専門性の向上をめざします。
 - ・簿記、ビジネス文書、商業経済などの商業系検定の合格をめざします。また、情報処理検定（ビジネス情報・プログラミング）、IT パスポート、基本情報技術者試験に挑戦できます。
- 【国際ビジネス科】…「商業の知識を基に、グローバル社会で活躍できる人材の育成」
 - ・商業・情報の専門性に加え、実践的な英語力と異文化理解を身につけます。
 - ・英検対策講座により準 2 級～2 級以上に挑戦が可能です。その他にも、簿記、ビジネス文書、情報処理検定（ビジネス情報）にも挑戦できます。

4 特徴的な学び

探究学習…「三菱みらい育成財団助成事業」として、松阪市や松阪商工会議所、地域の企業と連携した「ビジネス探究プログラム」を実践します。

1 年次：商業の基礎を探究的に学び、基礎力を定着。

2 年次：身近な課題をもとにビジネスプランを作成し、問いを立てる。

3 年次：「課題研究」で、これまでの学びを生かして課題解決に挑む。

情報教育…文部科学省 DX ハイスクールに採択され、生成 AI やオープンデータの活用を外部機関と連携して実践。国家試験合格も目指します。

国際交流…台湾姉妹校とのオンライン交流を行います。また、隔年での台湾研修・オーストラリア語学研修を実施します。

SBP 活動…地域や企業と協働して、ソーシャルビジネスプロジェクトを展開します。

令和7年度 飯南高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成する学校

○高校生が地域に関わり、地域とともに活動する学校

《育みたい生徒像》

○学習、部活動、学校行事に積極的に取り組み、「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を身につけた生徒

○地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒

2 学校の特色 （総合学科2学級）

◎飯南高校は昭和23年に誕生し、令和7年に創立77周年を迎えました。

学校は櫛田川の上流、まわりを緑に囲まれたすばらしい環境の中にあります。杉と檜が林立する「並木道」とカエデ属の落葉樹「ハナノキ」は飯南高校のシンボルです。

平成11年に全国初の連携型中高一貫教育を導入するとともに、普通科から総合学科に改編しました。生徒が自分の個性を活かした夢を育み、「好きなこと」を究め、未来を創るサポートをします。

◎地域と協働し、探究的な学び・キャリア教育を推進しています。

「産業社会と人間（1年次）」、「キャリアデザイン（2年次）」、「いいなんゼミ（3年次、総合的な探究の時間）」を軸に、各系列の学びを生かし、「地域を学び場とした探究活動」を充実させています。地域と連携したキャリア教育を通じて「生きる力」を育みます。

◎生徒一人ひとりを大切にします。

80人の定員を3学級に編成した少人数教育により、きめ細かなサポートを行っています。また、総合学科の特色を生かし、70あまりの講座を設けることにより、自分の興味・関心に合った学習ができるようになっていきます。さらに、地元の専門家や大学教授など、多くの特別講師が授業を担当しています。いろいろな分野のスペシャリストや地域の方々から学ぶことで、一人ひとりの個性をさらに伸ばすことをめざしています。

教職員は生徒への面談や声掛けを丁寧に行い、一人ひとりに寄り添います。

総合学科とは、「普通科」と「専門学科」のよいところを併せ持った学科です。

1年次は基礎を幅広く学びながら将来について考え、2年次から自分の学びたい系列に分かれて専門的に学んでいきます。「郷土・環境」「介護福祉」「総合進学」「コンピュータ」の4つの系列を用意し、多様な学びのニーズに対応しています。高校に入ってから自分の将来をじっくり考え、専門的に学びたいという人にぴったりの学科です。決められた科目以外は、幅広い選択科目の中から自分で選んで、好きなことを学べるのが一番の特長です。

生徒一人ひとりの挑戦を丁寧にサポートするため、飯南高校での3年間は大きく成長できる時間です。卒業後の進路実現に向けた支援、学力向上、求人開拓、職場定着等への取組は、生徒や保護者、地域の方々から大きな信頼を得ています。

令和 7 年度 相可高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒の夢をかなえる学校
- 地域と共に歩む学校
- 教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校

2 学校の特色

（普通科 2 学級＋生産経済科 1 学級＋環境創造科 1 学級＋食物調理科 1 学級）

（1）4 つの学科

< 普通科 >

単位制、少人数講座、習熟度別授業を取り入れ、併設する専門学科とともに探究し刺激しあう、他校に類を見ない環境のもと、国公立・私立の大学、短期大学、専門学校への進学や就職など、さまざまな進路に対応しています。

< 生産経済科 >

農産物生産の基礎・基本とその流通、園芸福祉、環境問題を学び、地域農業をはじめとする、地域産業の発展を担う産業人の育成をめざします。

< 環境創造科 >

生活の基礎を支える「街づくり」と「国土安全」を基本としながら、人々が自然と共生していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者を養成します。毎年、約 85～90% の生徒が公務員として就職し、国の省庁や地方自治体で活躍しています。

< 食物調理科 >

調理師コースと製菓コースとがあり、校内での実習の他、国内外における研修やインターンシップなど、数々の経験を重ね、高い技術と意識を併せ持つことで、グローバル、グローバルな場で活躍できるプロフェッショナルをめざします。

（2）キャリア教育、探究学習の充実

○相可高校では、「総合的な探究の時間」を「ドリーム・チャレンジング・タイム

（DCT）」と呼び、1 年生は学年全員で学科を越えた少人数グループを作り、課題と向き合っ、考えたり調べたりして自分の意見を出し、また、他者の意見を聞くことで出てきた情報を整理し、グループでまとめた意見を発表します。4 つの学科の生徒が入り混じっていることで、さまざまな価値観から学ぶことができ、視野が広がります。

探究学習は、各教科の学習の中でも進められますが、普通科では、2，3 年生でも引き続き「DCT」を学習し、専門学科では、2 年生以降、「課題研究」等の専門科目でそれぞれの学科に応じた専門性を追究し、グローバルやグローバルな活動をめざします。

○通常、高校で出会う大人といえば、ほとんどが教員だと考えられますが、相可高校では、「DCT」学習時の外部講師をはじめ、各学科が連携する地域や企業の方々、出前講座で来校する大学教員、調理クラブの実習施設「まごの店」や製菓コースの販売実習のお客様、など、たくさんの方々と関わるができます。このように、学校中で生きたキャリア教育を日々実践しています。

令和 7 年度 昂学園高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 総合学科、全寮制等の特色を生かして以下の人材育成や学校づくりをめざしています。
 - ・卒業後に社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成
 - ・何事も誠実・意欲的に取り組み、思いやりを持って人と接することができる人材の育成
 - ・地域（ユネスコエコパークである「大台町」）との連携を深め、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成

2 学校の特色 （総合学科 2 学級）

- (1) 総合学科（単位制、90 分授業、少人数制＜全学年 3 クラス 1 クラス約 25 名＞）

1 年次は共通の科目を履修し、自分の適性や進路について考えます。2 年次以降は 5 系列に分かれ、興味・関心のあることを学び、進路実現につなげます。

 - ＜地域探究系列＞

ヒト・モノ・コトがつながるまち“大台町”をフィールドに、探究活動を通じて、『答えのない問いに挑み続ける力』を育み、VUCA（先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態）時代を切り拓いていく人材を育成することをめざします。
 - ＜総合スポーツ系列＞

生涯スポーツにつながるニュースポーツや野外活動等の理論・実践を通じて、知識と技術を身に付け、様々なスポーツの指導者等をめざします。
 - ＜美術工芸系列＞

絵画・デザイン・立体造形等を基礎から学び、自分の表現の可能性を追求しながら、美術工芸で社会をより豊かにする力を身につけます。
 - ＜生活福祉系列＞

福祉全般の知識・技能を学び、高齢者を含めた、誰もが住みやすい社会を創造することができる人材を育成します。
 - ＜環境技術系列＞

野菜作り・木材加工・林業保全に関わる学習を行い、持続可能な資源とは何かを、校外学習や講師を交えながら学び、自発的な人材の育成をめざします。
- (2) 生徒寮「きらら」

県内外各地から集まった同世代の若者が集団生活を行うことで、自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力の伸長を図っています。
- (3) 地域みらい留学&地域高 2 留学実施校

都道府県の枠を越えて、地域の学校に入学した生徒とともに、充実した高校 3 年間を送ることができます。
- (4) 大台町（ユネスコエコパークに認定）との連携

地域とともにある開かれた学校づくりを進めています。
- (5) 国際教育

韓国養正高等学校と姉妹提携をしており、授業でハングル語を学ぶこともでき、国際感覚を育てます。

昂学園高校は、「大台町」の豊かな自然のなかで、寮（全寮制、但し大台町・大紀町・多気町の生徒は自宅からの通学も可能）での集団生活と総合学科、少人数教育、さらには地域（大台町）と結びついた活動を通じて、生徒の自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力を伸ばすことを目標にしています。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況

資料 3

(1) 令和7年3月卒・現高1

学校名	学科・コース	入学 定員	R6.12時点の 進学希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松 阪	普通	200	163	▲ 37	-	-	-	-	200	157	0.79	200	-	-	-	200	0
	理数	80	186	106	40	189	4.73	40	40	125	3.13	40	-	-	-	80	0
	学校計	280	349	69	40	189	4.73	40	240	282	1.18	240	-	-	-	280	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	47	2.35	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	32	▲ 8	20	29	1.45	22	18	12	0.67	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	34	▲ 6	20	40	2.00	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	54	1.35	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	66	26	20	61	3.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	236	36	120	231	1.93	128	72	74	1.03	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	115	▲ 5	60	116	1.93	66	54	58	1.07	54	-	-	-	120	0
	国際ビジネス科	40	32	▲ 8	20	34	1.70	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	147	▲ 13	80	150	1.88	88	72	76	1.06	72	-	-	-	160	0
飯 南	総合学科	80	72	▲ 8	40	60	1.50	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
	学校計	80	72	▲ 8	40	75	1.50	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
相 可	普通	80	102	22	24	92	3.83	27	53	64	1.21	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	46	6	20	43	2.15	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	環境創造	40	57	17	20	53	2.65	22	18	22	1.22	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	41	1	40	39	0.98	39	-	-	-	-	1	2	1	40	0
	学校計	200	246	46	104	227	2.18	110	89	109	1.22	89	1	2	1	200	0
昂学園	総合学科	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
	学校計	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
松阪地域（全日制）計		1,000	1,079	79	464	932	2.01	500	494	565	1.14	494	6	2	1	995	▲ 5

※「R6.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

(2) 令和6年3月卒・現高2

学校名	学科・コース	入学 定員	R5.12時点の 進学希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松 阪	普通	200	136	▲ 64	-	-	-	-	200	167	0.84	200	-	-	-	201	0
	理数	80	192	112	40	191	4.78	40	40	115	2.88	40	-	-	-	81	0
	学校計	280	328	48	40	191	4.78	40	240	282	1.18	240	-	-	-	282	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	48	2.40	22	18	20	1.11	18	-	-	-	39	▲ 1
	電気工学	40	48	8	20	49	2.45	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	31	▲ 9	20	31	1.55	22	18	15	0.83	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	43	3	40	43	1.08	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	47	7	20	46	2.30	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	217	17	120	217	1.81	128	72	78	1.08	72	-	-	-	199	▲ 1
松阪商業	総合ビジネス科	120	131	11	60	128	2.13	66	54	60	1.11	54	-	-	-	121	0
	国際ビジネス科	40	37	▲ 3	20	37	1.85	22	18	16	0.89	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	168	8	80	165	2.06	88	72	76	1.06	72	-	-	-	161	0
飯 南	総合学科	80	63	▲ 17	40	52	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0
	学校計	80	63	▲ 17	40	63	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0
相 可	普通	80	89	9	24	83	3.46	27	53	59	1.11	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	39	▲ 1	20	37	1.85	22	18	15	0.83	17	1	0	0	39	▲ 1
	環境創造	40	31	▲ 9	20	30	1.50	22	18	9	0.50	10	8	2	2	34	▲ 6
	食物調理	40	44	4	40	44	1.10	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	学校計	200	203	3	104	194	1.87	111	89	83	0.93	80	9	2	2	193	▲ 7
昂学園	総合学科	80	47	▲ 33	80	74	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲ 6
	学校計	80	47	▲ 33	80	74	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲ 6
松阪地域（全日制）計		1,000	1,026	26	464	893	1.92	495	498	540	1.08	485	20	9	7	989	▲ 14

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「R5.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

松阪地域の中学校卒業生進路先の推移

資料 4

(1)松阪地域(1市3町)の状況

市町	卒業 年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
1 市 3 町 の 合 計	6年度 (R7.3卒)	1,879	222 11.8%	137 7.3%	115 6.1%	79 4.2%	144 7.7%	8 0.4%	705 37.5%	314	314 16.7%	1,019 54.2%	141 7.5%	243 12.9%	218 11.6%	44 2.3%	646 34.4%	214 11.4%	1,879 100.0%
	5年度 (R6.3卒)	1,856	207 11.2%	151 8.1%	104 5.6%	80 4.3%	130 7.0%	14 0.8%	686 37.0%	307	307 16.5%	993 53.5%	140 7.5%	264 14.2%	219 11.8%	42 2.3%	665 35.8%	198 10.7%	1,856 100.0%
	4年度 (R5.3卒)	1,934	239 12.4%	150 7.8%	107 5.5%	68 3.5%	135 7.0%	17 0.9%	716 37.0%	354	354 18.3%	1,070 55.3%	168 8.7%	235 12.2%	231 11.9%	46 2.4%	680 35.2%	184 9.5%	1,934 100.0%

※地域外：松阪地域の全日制高校（県立・私立）以外の高校・高専への進学者数
※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

(2)市町別の状況

	卒業 年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
松 阪 市	6年度 (R7.3卒)	1,446	176 12.2%	110 7.6%	89 6.2%	61 4.2%	94 6.5%	1 0.1%	531 36.7%	265	265 18.3%	796 55.0%	69 4.8%	224 15.5%	151 10.4%	36 2.5%	480 33.2%	170 11.8%	1,446 100.0%
	5年度 (R6.3卒)	1,467	170 11.6%	127 8.7%	81 5.5%	66 4.5%	83 5.7%	2 0.1%	529 36.1%	280	280 19.1%	809 55.1%	62 4.2%	241 16.4%	151 10.3%	36 2.5%	490 33.4%	168 11.5%	1,467 100.0%
	4年度 (R5.3卒)	1,457	179 12.3%	127 8.7%	77 5.3%	57 3.9%	84 5.8%	6 0.4%	530 36.4%	290	290 19.9%	820 56.3%	73 5.0%	223 15.3%	149 10.2%	35 2.4%	480 32.9%	157 10.8%	1,457 100.0%
多 気 町	6年度 (R7.3卒)	176	22 12.5%	9 5.1%	10 5.7%	18 10.2%	29 16.5%	0 0.0%	88 50.0%	22	22 12.5%	110 62.5%	14 8.0%	10 5.7%	26 14.8%	3 1.7%	53 30.1%	13 7.4%	176 100.0%
	5年度 (R6.3卒)	148	16 10.8%	9 6.1%	4 2.7%	14 9.5%	34 23.0%	3 2.0%	80 54.1%	13	13 8.8%	93 62.8%	19 12.8%	5 3.4%	14 9.5%	5 3.4%	43 29.1%	12 8.1%	148 100.0%
	4年度 (R5.3卒)	199	22 11.1%	5 2.5%	18 9.0%	11 5.5%	37 18.6%	2 1.0%	95 47.7%	28	28 14.1%	123 61.8%	25 12.6%	2 1.0%	29 14.6%	7 3.5%	63 31.7%	13 6.5%	199 100.0%
明 和 町	6年度 (R7.3卒)	198	17 8.6%	14 7.1%	12 6.1%	0 0.0%	9 4.5%	1 0.5%	53 26.8%	16	16 8.1%	69 34.8%	53 26.8%	9 4.5%	36 18.2%	2 1.0%	100 50.5%	29 14.6%	198 100.0%
	5年度 (R6.3卒)	191	15 7.9%	12 6.3%	12 6.3%	0 0.0%	4 2.1%	1 0.5%	44 23.0%	10	10 5.2%	54 28.3%	54 28.3%	17 8.9%	48 25.1%	1 0.5%	120 62.8%	17 8.9%	191 100.0%
	4年度 (R5.3卒)	218	28 12.8%	13 6.0%	8 3.7%	0 0.0%	4 1.8%	1 0.5%	54 24.8%	24	24 11.0%	78 35.8%	67 30.7%	10 4.6%	48 22.0%	2 0.9%	127 58.3%	13 6.0%	218 100.0%
大 台 町	6年度 (R7.3卒)	59	7 11.9%	4 6.8%	4 6.8%	0 0.0%	12 20.3%	6 10.2%	33 55.9%	11	11 18.6%	44 74.6%	5 8.5%	0 0.0%	5 8.5%	3 5.1%	13 22.0%	2 3.4%	59 100.0%
	5年度 (R6.3卒)	50	6 12.0%	3 6.0%	7 14.0%	0 0.0%	9 18.0%	8 16.0%	33 66.0%	4	4 8.0%	37 74.0%	5 10.0%	1 2.0%	6 12.0%	0 0.0%	12 24.0%	1 2.0%	50 100.0%
	4年度 (R5.3卒)	60	10 16.7%	5 8.3%	4 6.7%	0 0.0%	10 16.7%	8 13.3%	37 61.7%	12	12 20.0%	49 81.7%	3 5.0%	0 0.0%	5 8.3%	2 3.3%	10 16.7%	1 1.7%	60 100.0%

※地域外：松阪地域の全日制高校（県立・私立）以外の高校・高専への進学者数
※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

令和7年度の協議について

1 はじめに

少子化の進行とともに、予測困難なほど社会情勢が大きく変化する中、子どもたちを取り巻く教育的課題はより複雑化・多様化し、さらにコロナ禍を経て学校のあり方や教育そのものの意義も問われています。このような状況の中、これからの時代を生きていく高校生に育みたい力や、本県の県立高等学校で進めていく教育など、これからの三重の県立高校の教育のあり方を示す「県立高等学校活性化計画（令和4年3月）」【別冊資料】を策定しました。

松阪地域では、「県立高等学校活性化計画」に基づき、令和4年度に当協議会を設置し、県立高等学校の学びと配置のあり方についての検討を進めてきました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月）より

これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、生徒の個性と能力を伸ばしつつ、予測困難な時代を豊かに生きるために必要な力を育み、持続可能な社会の創り手を育成することが求められている。そのため、生徒一人ひとりの興味・関心を高める教育に加え、協働的な学びや学校行事、部活動等を通じ、多様な考え方や価値観にふれ、互いに協力しあったり、切磋琢磨したりしながら、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 平成29年度から地域の協力を得て取組を進めてきた3学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和2年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 入学者が2年連続して20人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

2 令和6年度の協議

令和4年度と令和5年度の協議を踏まえるとともに、令和6年度には、地域の中学生と保護者を対象としたアンケート調査の結果も踏まえ、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先を見据えた協議を進めました。その中で、令和4年度からの協議を整理するとともに、令和11年度までに当地域の1学年あたりの総学級数が5学級程度減少し、20学級程度となることが見込まれることから、当協議会の方向性を「令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ～今後の学びと配置のあり方について～」としてとりまとめました。

※資料6「松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について」

※資料7「令和4～6年度の協議（主な意見）」

※資料8「令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ～今後の学びと配置のあり方について～」

【参考】令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ～今後の学びと配置のあり方について～」要点

- 今後の当地域における高等学校の学びと配置のあり方については、これまでに協議してきた「基本的な考え方」や「再編を検討するうえで大切にしたいこと」をふまえる。
- 令和8年度に見込まれる1学級減への対応については、中学生の進路選択に大きな影響を及ぼすことがないよう、学校の統合ではなく学級減で対応することが望ましい。
- 令和10年度から11年度にかけて見込まれる4学級程度の大幅な学級減への対応については、学校の再編も含めて協議を進め、令和8年度までに段階的に協議会としての方向性を取りまとめる。

3 令和7年度の協議の進め方

現計画の計画期間は令和4年度から令和8年度までとなっていることから、次期計画の策定に向け、三重県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議において、審議が始まっています。このことから、次期計画の策定の動きも注視しながら、引き続き、15年先を見据えた高校の学びと配置のあり方について協議を進めます。また、令和10年度から11年度にかけて見込まれる5学級程度の学級減への対応の方向性について協議を進めます。

資料9：次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

4 今後の協議会開催スケジュール

(1) 第1回協議会（本日9月30日）

- ・松阪地域の高等学校を取り巻く状況について
- ・これからの松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について
- ・令和10年度から11年度にかけて見込まれる学級減への対応の方向性の協議①

(2) 第2回協議会（令和8年2月頃）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・これからの松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について
- ・令和10年度から11年度にかけて見込まれる学級減への対応の方向性の協議②

5 令和8年度の協議（3回程度開催予定）

○第1回協議会（令和8年7～8月頃）

- ・松阪地域の高等学校を取り巻く状況について
- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・令和10年度から11年度にかけた学級減への対応について協議①

○第2回協議会（令和8年9月頃）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・令和10年度から11年度にかけた学級減への対応について協議②
- ・「令和8年度のまとめ」（案）について

○第3回協議会（令和8年11月頃）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・「令和8年度のまとめ」について

松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること (問 6)

「通学のしやすさ・距離」(49.3%)、「学校の雰囲気・イメージ」(49.0%)に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」(42.4%)、「学びたい学科やコースがある」(39.5%)、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」(35.7%)の順となっている。

(2) 高校に期待する教育 (問 8)

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」(52.6%)、「基本的な知識が身につく教育」(43.1%)をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(42.0%)、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(40.1%)を期待している。

(3) 希望する学級数について (問 10)

多い順に「4～6学級」(42.1%)、「2～3学級」(36.3%)、「1学級」(18.0%)、続いて「7学級以上」(3.7%)となっている。

(4) 通学時間について (問 11)

多い順に「60分以内まで」(51.1%)、「30分以内まで」(28.9%)、「90分以内まで」(13.5%)、「120分以内まで」(4.1%)、「121分以上」(2.3%)となっている。

(5) 将来就きたい仕事について (問 12)

「まだ決まっていない、わからない」(40.4%)が多く、「健康・スポーツ関係(インストラクター、選手・監督など)」(13.9%)、「医師、看護師、薬剤師など」(11.4%)と「理容、美容関係」(11.4%)と続いている。

(6) 将来生活する場所について (問 14)

「まだ決まっていない、わからない」(32.5%)が最も多く、続いて、「県外」(20.6%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(18.7%)、「地元(現在住んでいる市町)」(12.3%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学びたい学科やコースがあること」(73.3%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(64.4%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(59.4%)に続いて、「進学・就職の実績」(39.5%)、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(39.2%)、となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

「自ら学び続ける力が身につく教育」(61.0%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(60.7%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(53.6%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.0%)を期待している。

(3) 希望する学級数について（問10）

多い順に「4～6学級」(45.4%)、「2～3学級」(36.9%)、「1学級」(11.9%)、続いて「7学級以上」(5.8%)となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」(66.4%)、「30分以内まで」(24.1%)、「90分以内まで」(8.3%)、「120分以内まで」(0.9%)、「121分以上」(0.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「本人の希望次第」(71.2%)が最も多く、続いて、「地元(現在住んでいる市町)」(9.1%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.8%)となっている。

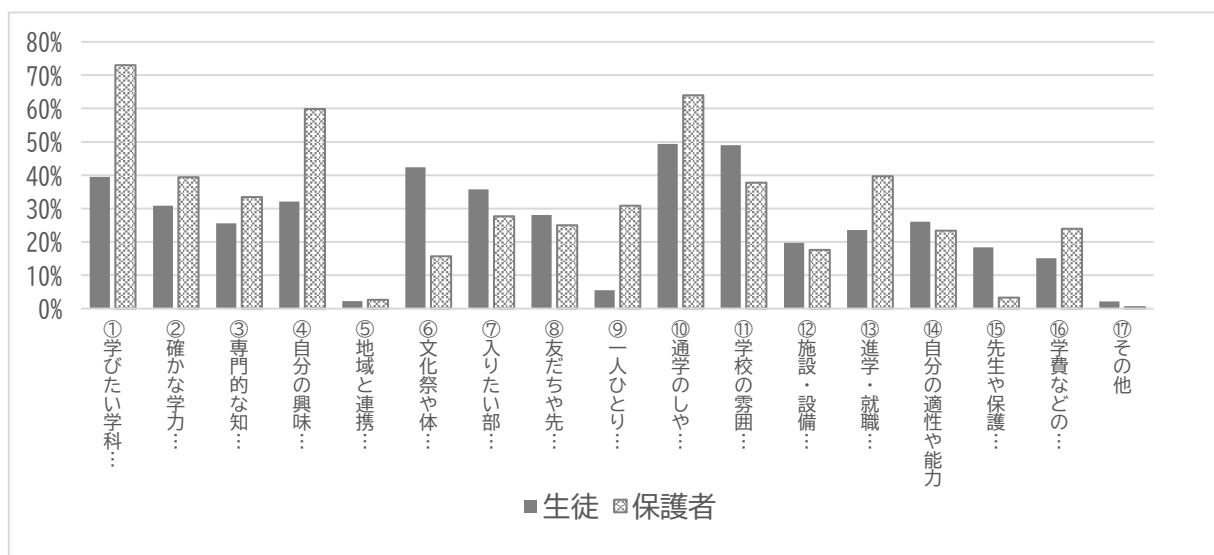
(6) 今後の松阪地域の県立高校のあり方について（問13）

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(68.4%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(27.0%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.5%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

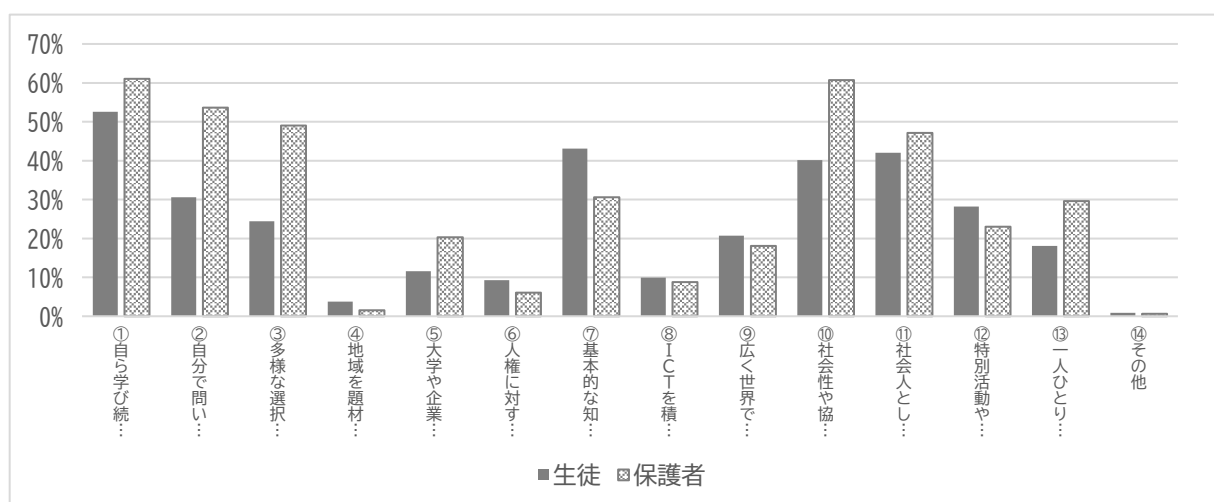
(1) 高校選びで重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
① 学びたい学科やコースがある	④	576	39.5%	①1,357	73.3%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	450	30.8%	⑤ 725	39.2%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑩	373	25.6%	⑦ 615	33.2%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	468	32.1%	③1,100	59.4%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑬	33	2.3%	⑬ 51	2.8%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	618	42.4%	⑭ 294	15.9%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	521	35.7%	⑨ 522	28.2%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑧	409	28.0%	⑩ 461	24.9%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	81	5.6%	⑧ 589	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	720	49.3%	②1,192	64.4%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	715	49.0%	⑥ 708	38.2%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	288	19.7%	⑬ 310	16.7%
⑬ 進学・就職の実績	⑪	344	23.6%	④ 731	39.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	380	26.0%	⑫ 434	23.4%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	268	18.4%	⑮ 63	3.4%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	220	15.1%	⑪ 444	24.0%
⑰ その他	⑰	31	2.1%	⑰ 11	0.6%



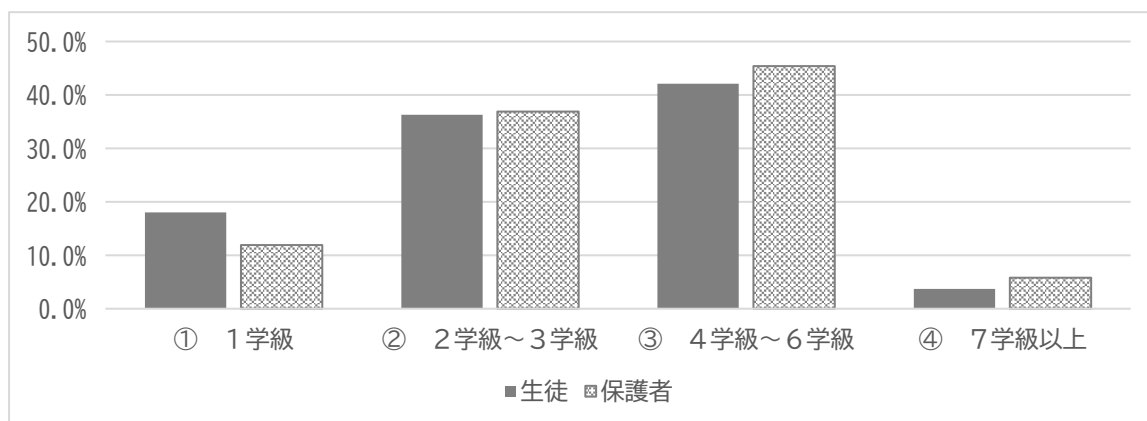
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象		生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
① 自ら学び続ける力が身につく教育	①	767	52.6%	①	1,129	61.0%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤	447	30.6%	②	993	53.6%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑦	356	24.4%	④	907	49.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬	56	3.8%	⑬	28	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩	169	11.6%	⑨	376	20.3%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫	135	9.3%	⑫	113	6.1%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	②	629	43.1%	⑥	567	30.6%
⑧ ICTを積極的に活用する教育	⑪	145	9.9%	⑪	163	8.8%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧	302	20.7%	⑩	335	18.1%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④	585	40.1%	②	1,123	60.7%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③	613	42.0%	⑤	871	47.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑥	411	28.2%	⑧	426	23.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨	264	18.1%	⑦	548	29.6%
⑭ その他	⑭	13	0.9%	⑭	11	0.6%



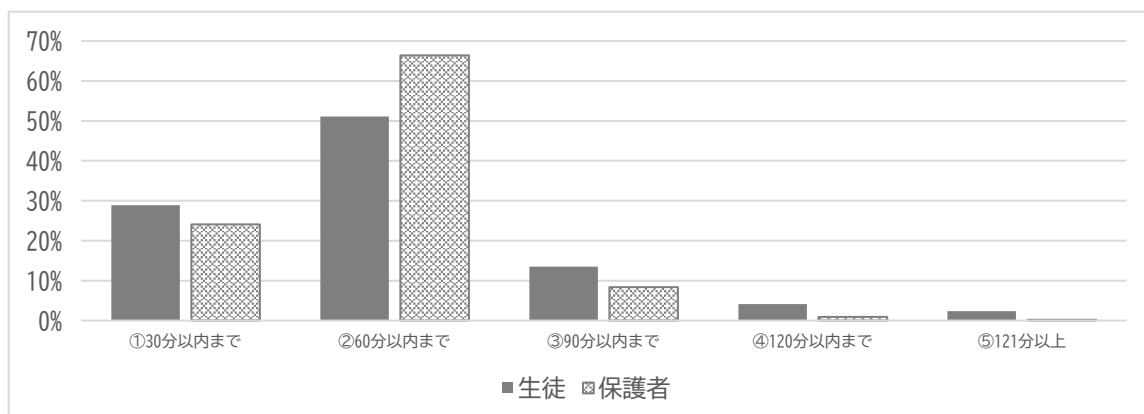
(3) 1学年あたりの学級数 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,852人)	
① 1学級 (40人)	③ 262	18.0%	③ 220	11.9%
② 2学級～3学級 (80人～120人)	② 529	36.3%	② 684	36.9%
③ 4学級～6学級 (160人～240人)	① 614	42.1%	① 841	45.4%
④ 7学級以上 (280人～)	④ 54	3.7%	④ 107	5.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目 \ 対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,850人)	
① 30分以内まで	② 422	28.9%	② 446	24.1%
② 60分以内まで	① 746	51.1%	① 1,229	66.4%
③ 90分以内まで	③ 197	13.5%	③ 154	8.3%
④ 120分以内まで	④ 60	4.1%	④ 17	0.9%
⑤ 121分以上	⑤ 34	2.3%	⑤ 4	0.2%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両方で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒4位 576人(39.5%)、保護者1位 1,357人(73.3%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒6位 468人(32.1%)、保護者3位 1,100人(59.4%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒1位 720人(49.3%)、保護者2位 1,192人(64.4%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒2位 715人(49.0%)、保護者6位 708人(38.2%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒7位 450人(30.8%)、保護者5位 725人(39.2%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 618人(42.4%)、保護者14位 294人(15.9%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒5位 521人(35.7%)、保護者9位 522人(28.2%)

⑬進学・就職の実績

生徒11位 344人(23.6%)、保護者4位 731人(39.5%)

＜ 参 考 ＞

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒16位 33人(2.3%)、保護者16位 51人(2.8%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 81人(5.6%)、保護者8位 589人(31.8%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 268人(18.4%)、保護者15位 63人(3.4%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両方で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 767人(52.6%)、保護者1位 1,129人(61.0%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 447人(30.6%)、保護者2位 993人(53.6%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 585人(40.1%)、保護者2位 1,123人(60.7%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 613人(42.0%)、保護者5位 871人(47.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位5つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒 7 位 356 人 (24.4%)、保護者 4 位 907 人 (49.0%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒 2 位 629 人 (43.1%)、保護者 6 位 567 人 (30.6%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒 13 位 56 人 (3.8%)、保護者 13 位 28 人 (1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒 12 位 135 人 (9.3%)、保護者 12 位 113 人 (6.1%)

(3) 「1 学年あたりの学級数 (1 つ選択)」について

生徒、保護者とも「4 ～ 6 学級」(生徒 42.1%、保護者 45.4%) と最も多く、次いで「2 ～ 3 学級」(生徒 36.3%、保護者 36.9%)、「1 学級」(生徒 18.0%、保護者 11.9%) と続いている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間 (1 つ選択)」について

生徒、保護者とも「60 分以内まで」(生徒 51.1%、保護者 66.4%)、「30 分以内まで」(生徒 28.9%、保護者 24.1%) と続き、さらに「90 分以内まで」(生徒 13.5%、保護者 8.3%)、「120 分以内まで」(生徒 4.1%、保護者 0.9%) となっている。

令和4～6年度の協議(主な意見)

1 これまでの主な意見 (○:R4① ◇:R5① ◎:R5② ▽:R6① ☆:R6② □:R6③)

(1) 子どもたちに育みたい資質・能力

- 地域の小中高が連携することに加え、家庭・地域が一緒になって教育活動に取り組むことが、将来の松阪地域を担う子どもたちの育成につながっていく。
- 生徒が減少していく中であっても、この地域で学び就職する人が増えるよう、高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持するとともに、より実践的なキャリア教育に取り組んでもらいたい。
- 県外からの入学生が増加している昴学園高校の事例から考えると、県外から三重に来てもらい、三重で活躍できる人材を育てるという考え方もあるのではないかな。
- ◇ 生成AI技術の進歩など、急速に社会が変化する中で、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材をいかに育てていくかが課題となる。生徒が興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばせるようにしたい。
- ◇ 先が見えないコロナ禍を過ごした子どもたちだからこそ、自ら課題を見つけて向かっていくという「未来を切り拓く力」が大切である。
- ◇ コミュニケーション能力や課題解決能力に加え、答えを見つけるだけではなく、問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力も必要である。
- ◇ 多様性の時代には、一つの問題に対してさまざまな考え方ができるよう、多面的な学びが重要となる。また、未来を切り拓く力を育むためには、多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択できるようにすることも大切である。
- ◇ 子どもたちの視点を大切にして、子どもたち一人ひとりが自分のよさを伸ばすことができる環境をつくるのが大切である。
- ◇ 将来の進路や興味・関心より、偏差値で高校を選択する傾向も見られる。高校進学に向けた小中学校でのキャリア教育が大切である。
- ◇ 指示がないと意欲的に仕事ができない若手職員が年々増えている。このことから学生時代に子どもの自主性を伸ばしていくことが重要であると感じる。
- ◇ 不登校を経験した生徒の受け皿に加え、入学後に不登校にならないようなケアも大切である。
- ◎ 他地域の高校や県外の大学へ進学したとしても、将来この地域を愛し、この地域に戻ってきたいと思ってもらえるよう、小中高をとおり地域に根差した学びを大切にしたい。
- ◎ 求人を出してもなかなか応募がないという現状があり、地域における人材育成の視点に加え、労働条件を含めた魅力ある職場づくりも必要であると感じている。
- ◎ 中学生に、なぜ大学へ進学するのかを考えさせたり、地元の高校から地域の企業に就職することのよさを伝えたりしていく必要がある。小中高が連携して、こうした人生設計につながるキャリア教育に取り組むことが大切である。
- ▽ 松阪市では今年度より全ての小中学校でコミュニティ・スクールを導入し、地域に根差した学校をめざしている。その中で地域を大切にする心や地域を愛する心を育てたい。
- ▽ 自分の子どもには漠然と大学へ進学してほしいと考えているが、最終的には地元に住んでもらいたいので、地域への愛着心を育むための学びの必要性については、保護者として大変共感できる。

- ☆ 「将来就きたい仕事」で、多種多様な職業を志している結果をふまえると、中学生が将来を見据えた高校や学科の選択ができるよう、学力だけでなく、キャリア教育をさらに充実させることが必要である。こうしたことをふまえて、今後の高校の学びと配置のあり方についての議論につなげていく必要があると感じた。

- 将来の松阪地域を担う子どもたちの育成が大切
- ◇興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばすことが必要
- ◇夢や希望をかなえるため、自らの可能性を発揮し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」が必要
- ◇コミュニケーション能力や課題解決能力
- ◇問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力
- ◇多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択する力
- ◇高校進学に向けた、小中学校でのキャリア教育
- ◇学生時代における子どもの自主性
- ◎地域への愛着心を育むために、地域に根差した学びが必要
- ▽地域を大切に作る心や地域を愛する心

(2) 松阪地域の中学生の進路状況について

- ◎ 松阪地域には多様な学科がバランスよく配置されているにもかかわらず、中学校卒業生の約3分の1が他地域の全日制高校へ進学している。その要因を分析し、各高校・学科の魅力を高め、それを発信することができれば、地元の高校へ進学する生徒の割合も増えるのではないかと。
- ◎ 学校以外の習い事でできた友人と同じ学校に行きたいという理由で、他地域の高校へ進学する生徒も一定数いるようだ。保護者としても、子どもが希望するなら高校段階では地域を越えて交流させてやりたいという思いがあるのではないかと。
- ◎ 松阪地域の高校卒業生の約6割が大学、短大、専門学校等へ進学していることや、自分が純粋に行きたい高校を記入していると思われる中学校3年生の7月段階の進路希望状況を勘案すると、松阪地域では普通科の定員が不足しており、その結果として私立高校や他地域の高校へ進学しているのではないかと。
- ▽ 人手不足が叫ばれる中、高校にも毎年たくさんの求人がある。これまで以上に地域の企業と密に連絡を取り合い、マッチングを進めていかないと、地域へ生徒を送り出せなくなってしまうのではないかと懸念している。

- ◎各高校・多様な学科の特色化・魅力化の向上とその情報発信により、地元高校への進学割合を高める
- ◎地域の中学生のニーズや現状を分析し、配置のあり方を検討する
- ▽地域の企業との連携

(3) 再編を検討するうえで大切にしたいこと

- 地域と連携した学びやICTを活用した学習などを取り入れながら、学校の活性化や魅力ある学校づくりにつなげてもらいたい。
- 地域の少子化や教育的ニーズの多様化が進む中、小学校から高校までの一貫した学びで子どもたちを育むことを意識しながら、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していくことが大切である。
- 15年前と比べ、生徒数は減っているものの、不登校傾向にある生徒や発達に課題がある生徒、外国につながりを持つ生徒の割合が増えてきており、15年先を見据え、高校において求められる学びを検討する際には、これらの課題に柔軟に対応していくことが大切である。

- 松阪地域は、多様な学科や特色ある学びを持つ県立高校に加え、魅力ある私立高校があるなど、高校選択に関して恵まれた環境にある。地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要である。
- 高校魅力化の重要な要素でもある部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要である。
- ◇ 松阪地域は、私立高校や通信制課程を含め、普通科、専門学科、総合学科がバランスよく配置されている。今後、高校の配置を検討するにあたっては、近隣地域との流入・流出状況もふまえ、学びの選択肢が保たれるよう総合的に考えていきたい。
- ◇ 学級規模に関わらず、どの高校でも学校の特色に応じたきめ細かな教育が行われているが、生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましいと感じる。
- ◇ 学級規模が小さくなれば教員数が減り、多様な選択科目や部活動の維持が難しくなる。高校の学びや配置のあり方を考える上では、スケールメリットも重要な要素である。
- ◎ 多様な選択肢があったとしても、現実的な合格可能性、交通の利便性や通学費用などを考えて、隣接地域の高校を選択する生徒も多い。
- ◎ 大学等に進学するなら普通科でなければというのではなく、専門学科から大学等へ進学する生徒も多いことを、中学生にしっかりと周知していく必要がある。
- ◎ 目標に向かって粘り強く取り組む力や、他者と協働する力などの非認知能力を育成することが大切になっており、そういった学びの実現には一定の学校規模があるほうが望ましい。
- ◎ 一般に小規模校に存在するとされているメリットは、「体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる」といったものを除いて、概ね大規模校にも存在している。一方で、学級減による教員数の減少は、教科指導や部活動など学校運営全体に大きな影響を与えることとなる。
- ◎ 専門学科の学びの選択肢を維持するために、近年は主に普通科の定員を減じてきたが、これ以上松阪地域の県立高校の普通科の定員を減らすべきではない。普通科と専門学科・総合学科のバランス、公立と私立のバランスをしっかりととりながら、慎重に議論を進めてもらいたい。
- ◎ いつ頃までに、当協議会としての方向性をとりまとめる必要があるのか。
⇒（事務局）松阪地域では、令和11年度に大きな中学校卒業生数の減少が見込まれているので、統合を含めた再編を検討するのであれば、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性をとりまとめる必要がある。
- ▽ 高い教育効果を得るためには、一定の学校規模を維持することが必要である。また、地域の子どもを地域で育てるためには、現在のバランスのよい学びの配置を維持することも必要である。
- ▽ 学級数の減少が見込まれる中、現在の全ての専門学科を残すことは不可能である。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさないような対応を、具体的に検討する必要がある。
- ▽ 地域に子どもたちのニーズにあった多様な学びの選択肢を残すことで、当地域の高校への進学率が高まるのではないかな。
- ☆ アンケート結果から、子どもたちは高校選びで部活動を重視しており、そのニーズをかなえるためには、一定の学校規模があったほうがよい。
- ☆ 学校規模については、より丁寧な議論が必要であるが、多様な教育課程の編成や、それを可能とする教員数を確保する観点から、学校によっては8学級や6学級を下回らないといったことを明記したほうがよいのではないかな。
- ☆ 多様な選択科目の開設には、相当数の教員が必要であるとともに、学校行事や部活動などの充実のためにも、一定の学校規模があったほうがよい。

- ☆ 総学級数の減少が見込まれる中、1校あたりの学級数を確保しようとする、現在ある学校数の維持は難しくなる。「一定の統合は避けられない」という声も多くあることから、学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある。
- ☆ 増加している不登校の子どもたちの進路も考えて、当地域の高校の配置のあり方を考えていきたい。不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校が、当地域にあってもよいのではないかな。
- ☆ 専門学科の学びの選択肢の維持については、農業・工業・商業などの枠にとらわれず、学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進めたい。
- ☆ 統合についての検討にあたっては、「統合は避けるべき」と「一定の統合は避けられない」を選択したどちらの保護者にも共通する「子どもたちの学びの選択肢や特色のある学びの維持」を望む意見を大切にすることが必要。
- 中学校において部活動の地域移行の議論や取組が進む中、高校における部活動の維持・活性化がどのように進んでいくのかをふまえ、議論する必要があるのではないかな。
- 小中学校において35人学級の実現が進んでいることから、中学校卒業生数の減少に対して、学級減で対応する前に、1学級40人となっている定員を減らすことで対応することを検討してはどうか。
- 小規模校から大学へ進学し、社会で活躍している卒業生も多い。子どもたちの思いや願いをふまえた学びが充実し、それがキャリアにもつながる学びの選択肢が、この地域にはあるということを念頭に、さらに協議を進めていきたい。
- 15年先を見据えた方向性を取りまとめるためには、校舎の老朽化も念頭に置く必要があるのではないかな。次年度以降に、関係する資料を提示していただきたい。

①学校規模について

- 部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要
- ◇生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましい
- ◇高校の学びや配置のあり方を考える上では、教員数の確保や多様な選択科目や部活動の維持を視点としたスケールメリットも重要
- ◎教科指導や部活動などの学校運営については、学級減に伴う教員数の減少による影響も考慮する必要がある
- ☆不登校に特化して子どもたちの学びを支える小規模校の配置
- 部活動の維持・活性化を視野に入れた議論が必要

②学びの選択肢について

- 高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持することが必要
- ◇近隣地域との流入・流出状況をふまえた、学びの選択肢の維持
- ▽現在の全ての専門学科を残すことは不可能。今後、学級数を減じながらも学びの選択肢は減らさない対応を具体的に検討することが必要
- ▽現在のバランスのよい学びの配置を維持
- ☆学科を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論が必要
- 子どもたちのキャリアにつながる学びの選択肢を念頭に、協議することが必要

③その他

- 松阪地域全体を見通した高校の学びと配置のあり方を協議することが必要
- 地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要
- ◎学科のバランス、公立と私立のバランスを意識しながら、慎重に議論する必要がある

◎令和11年度の生徒減による学級減への対応については、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を出す必要がある
 ☆学級数と学校数のバランスに留意して、検討を進める必要がある
 □校舎の老朽化も念頭に置く必要がある

(4) 今後の協議に向けて

- 15年先までに松阪地域で県立高校が10学級程度も減少するのであれば、現在地域にある専門学科の統廃合も検討していく必要がある。
- 15年先を見据えた高校の学びと配置のあり方を検討していく際には、変化の激しい時代における子どもたちの進路実現のため、これまでの価値観だけで考えるのではなく、子どもたちを軸にした教育課程の改革などについて議論していく必要がある。
- 高校配置のあり方を考えるにあたっては、各学校の学びの内容や特色、地域における様々な教育活動等を共有しながら協議を進めてはどうか。
- 松阪地域における過去の高校統合の事例をはじめ、今年度他地域の協議会で検討された統合や募集停止に関する意思決定の過程、及び学びの保障の方向性等を参考にしながら、協議を進めるのがよいのではないかと。
- 学校の小規模化が進むと教員数が少なくなるため、生徒の幅広い学びの選択肢を確保することが難しくなる。協議会では教員定数や教育予算なども考慮しながら、高校配置のあり方について協議を進めていきたい。
- 地域から高校がなくなることは、地域の人々にとって大きな出来事である。15年先の生徒減の現実を受け止め、協議会でしっかり議論していく必要がある。
- 中学生や保護者の意見をアンケート調査で聞いてはどうか。その際、保護者の中でも様々な意見があるため、質問内容だけでなく世代別などに集計するなどの工夫も考えられる。子どもたちの思いを取り入れながら協議会の議論を進めていきたい。
- 専門学科の高校では資格取得も含めた専門教育を進めているが、その中で生徒たちが何に魅力を感じ、興味を持ったのかなどを把握したうえで高校の学びについて検討していきたい。
- 明和町は松阪市と伊勢市の間に位置しており、松阪市内だけでなく伊勢志摩地域への進学も多い。明和町内にも高校があれば小中高一貫した教育にも取り組みやすくなる。
- 大台町からは通学に時間はかかるものの、松阪地域において幅広く高校を選択することができる。この教育環境が維持できるよう議論を進めていきたい。
- 生徒数が減少する中、地域の高校へ進学する生徒を確保することが大事であり、そのためには高校側もより積極的な情報発信が必要である。
- この地域の豊かな学びを保障するために、統合ありきではなく、幅広い視野を持って協議を進めていきたい。
- ◇ 県や松阪地域がめざす15年先の社会の姿をふまえ、こういった人材の育成が必要なのかの議論を進めたい。
- ◇ 子どもたちをメインとした議論を進めるためにも、アンケート調査が必要ではないか。
- ◇ 今後の議論の参考とするため、他地域の専門高校や協議会の状況が分かる資料があるとよい。
- ◇ 学びの環境をつくるのは大人の責任である。その際には、子どもに寄り添うことや、子どもの思いを大切にしながら議論を進めたい。
- ◇ 松阪地域外へ進学している現状がある中、この地域の子どもたちが、この地域で学べる状況が作られるよう、子どもたちの思いや願いが叶えられる地域の高校の魅力をさらに高めていきたい。
- ◇ 学科の配置については、今後進展が予想される業種や職種をふまえて議論を進めたい。

- ◇ ICTの発達等により働き方が多様化し、特別な支援を必要とする生徒の卒業後の受け皿が拡大していることをふまえ、特別支援学校だけでなく、高校においても、特性を持った生徒が自分の得意なことを伸ばすことのできる環境整備が必要である。
- ◇ 受験生は、希望よりも学力的に入りやすい高校を選択したり、早く進路を決めたりする傾向が見られる。また、コロナ禍で増えた不登校の生徒の多くが、県外の通信制高校に進学する状況も見られる。これらの状況もふまえ、地域に根差した教育を推進する観点から、高校の魅力化について考えていきたい。
- ◇ 松阪地域は他地域と比べて私立高校の定員の比率が高い。当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論すべきである。
- ◎ 中学生向けの進路説明会では、大学合格実績や就職先だけではなく、小規模校で独自に行っている特色ある教育や、どのような学びができるのかをもっとアピールするべきである。
- ▽ 企業説明会や、企業と高校が連携した取組を進めることにより、地元企業を知ってもらう機会が増えるとよい。
- ☆ 生徒や保護者が期待している社会性や協調性を育むには、ある程度の学校規模が必要ではあるが、通学のしやすさを重視する回答も多いことから、交通の利便性や通学費用も考慮して、どの場所に統合するかなどを慎重に議論する必要がある。
- ☆ 多様な学びや学習形態を展開する私立の通信制高校への進学者数が増加していることから、県立高校においても通信制課程や定時制課程を含めた学びの改革についての議論が必要なのではないか。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○地域にある専門学科の統廃合を検討していく必要がある ○子どもを軸にした教育課程の改革などについての議論も必要 ○教員定数や教育予算なども考慮しながら協議する必要がある ○◇中学生や保護者へのアンケート調査で結果を踏まえた議論が必要 ◇子どもに寄り添い、子どもたちの思いや願いが叶えられるよう地域の高校の魅力を高める必要がある ◇当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論 ◎小規模校で独自に行っている特色ある教育や学びをアピールすべき |
|--|

令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議のまとめ ～今後の学びと配置のあり方について～

1 これまでの経緯

- 本協議会は、「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、松阪地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備することを目的に、令和4年度に設置されました。
- 本協議会では、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、地域の県立高等学校を取り巻く状況や現状、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有しつつ、当地域の子どもたちにとっての最善の教育環境を実現することを第一に、子どもたちの人権や学びなどの視点も大切にしながら協議を進めてきました。
- 令和6年度は、今年度実施した地域の中学生と保護者へのアンケート結果もふまえながら、引き続き、松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について協議を継続しているところです。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定）

「これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方」の概要

- ・これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- ・3学級以下の小規模校活性化の検証結果、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行う。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議する。
- ・こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- ・1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- ・次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

2 松阪地域の状況

- 当地域には、私立高校や定時制課程、通信制課程を含め、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく配置されており、6校ある県立高校（全日制）における令和7年度入学生の学級数は、普通科・普通科系専門学科9学級、職業系専門学科12学級、総合学科4学級の合計25学級となっています。
- 当地域の中学校卒業者の約3人に1人が、伊勢志摩地域や津地域などの地域外の全日制高校等へ進学するとともに、約6人に1人が当地域の私立高校へ進学している状況にあります。
- 当地域の中学校卒業生数は、令和7年3月の1,879人から、令和11年3月には1,586人（令和7年3月比293人減）となることが見込まれており、さらに令和21年3月には1,049人（令和7年3月比830人減）と減少傾向が続きます。

- このことから、当地域の1学年あたりの総学級数は、令和7年度入学生の25学級から、令和5年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和21年度には11～14学級程度となることが見込まれています。

3 今後の学びと配置のあり方について

(基本的な考え方)

- 子どもたちには、夢や希望をかなえるため、自らの可能性を引き出し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力を育てる必要があります。
- 地域を大切にする心や、地域を愛する心を育むための「地域に根差した学び」を推進する必要があります。
- 特別な支援が必要な生徒や外国につながる生徒、不登校の状況にある生徒などが増加傾向にあることから、多様な背景をもつ子どもたちの教育環境の整備を大切な視点の一つとして、協議を進めます。
- 急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に地元の高校から情報発信するなど、小中高が連携したキャリア教育に取り組むことが大切です。

(再編を検討するうえで大切にしたいこと)

① 学校規模について

- 高校の学びや配置のあり方を考えるうえでは、教員数の確保や多様な選択科目の開設、部活動の維持の視点から、学校規模が重要な要素となります。
- 多様な選択科目を開設するには、一定の教員数が必要であり、特に、進学ニーズに応える普通科高校については、専門性の高い教員を各科目に配置することが求められることから、1学年あたり8学級が望ましく、少なくとも6学級を下回らないよう学級数を維持する必要があります。
- 各学校においては、特色ある活動に取り組んだり、全国で活躍するチームや個人を輩出したりするなど、活発な部活動が行われており、地域の子どもたちへのアンケート結果からも、高校を選択するうえで、部活動が重視されています。こうしたニーズに応えるためには、一定の学校規模が必要であり、部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況との相関から、部活動を維持・活性化する視点において1学年あたり4学級以上が望ましいと考えます。
- 現計画で統合の検討対象とされる3学級以下の高校については、学級減による教員数の減少が、教科指導や部活動など学校運営全体に影響を与えることが懸念されます。一方で、今年度実施した中学生と保護者へのアンケート結果では、3学級以下を希望する声もあることから、当地域の小規模校の教育実践や、他地域の協議会における小規模校のあり方にかかる議論を参考にしつつ、学級数と学校数のバランスに留意したうえで、再編について丁寧に議論する必要があります。

② 学びの選択肢について

- 現在、当地域の県立高校には、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく設置されており、近隣地域との流入・流出状況や公立と私立のバランス等も意識しながら、地域全体を見通して、丁寧に議論する必要があります。

- 当地域の普通科・普通科系専門学科においては、多くの卒業生が高等教育機関への進路実現を果たしています。今後も、大学等への進学ニーズに応える教育環境を維持する必要があります。
- 当地域の専門高校には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、卒業生の多くが地域の産業を支えていることから、これら専門学科の学びの選択肢を維持し、これから先も地域を支える人材を育成する必要があります。
- しかしながら、今後の生徒数の減少をふまえると、専門高校の統合も避けられない状況であり、現在の専門学科すべてを維持することは難しくなるため、異なる学科の生徒が協働して課題に取り組んだり、異なる学科の専門的な教科・科目を選択することを可能にしたりするなど、学科の枠を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進める必要があります。
- 当地域では2校で総合学科が設置されており、それぞれで特色ある学びや、多様な生徒に対応する学びを展開しています。今後、生徒が減少していく中にある場合は、総合学科のあり方や活性化にかかる協議を進める必要があります。
- また、多様化するニーズにあわせた定時制課程や通信制課程を含めた県立高校の学びのあり方についても議論する必要があります。
- 現行の40人定員の学級編制基準を引き下げるとは、中学校卒業生数の減少にあっても総学級数の減少幅を抑えるとともに、子どもたちにとってのよりよい学習環境の整備や、教職員定数の確保等につながることから、県と連携した国への要望についても検討する必要があります。

4 今後の協議の進め方

- 当協議会では引き続き、現計画に基づき、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先に1学年あたりの総学級数が11～14学級程度まで減少していく途上にあるという視点をもって、これまで協議してきた内容をさらに深め、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していきます。
- 協議にあたっては、近隣地域との流入・流出状況や地域の私立高校を含めた進学状況等もふまえ、学びの選択肢の維持や多様な子どもたちの進路が保たれるよう、課程（全日制・定時制・通信制）や学科の枠を越えて、総合的に考えていきます。
- 中学校卒業生数の減少に応じた学級減への対応方針の協議については、当地域で見込まれる総学級数の視点のみで考えるのではなく、多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する必要があります。
- これらのことにより、松阪地域の子どもたちが、この地域の高校に通い、学んでみたいと思えるよう、また、松阪地域の将来を担う子どもたちを育めるよう、高校の特色化・魅力化についての議論を進める必要があります。
- また、高校の統合を含めた学級減への対応を行う場合には、引き続き、丁寧に議論を進める必要があります。しかし、募集停止や統合を行う場合にあっては、中学生が進路選択を行うまでには、高校3年生の時点で新入生が入ってこなくなる状況等を周知しておく必要があることから、遅くともその3年前には、当協議会の方向性を示す必要があります。
- 以上のことから、令和8年度から令和11年度に想定される5学級程度の減少への対応については、これまでの協議をふまえ、次のとおりとします。

【令和8年度】

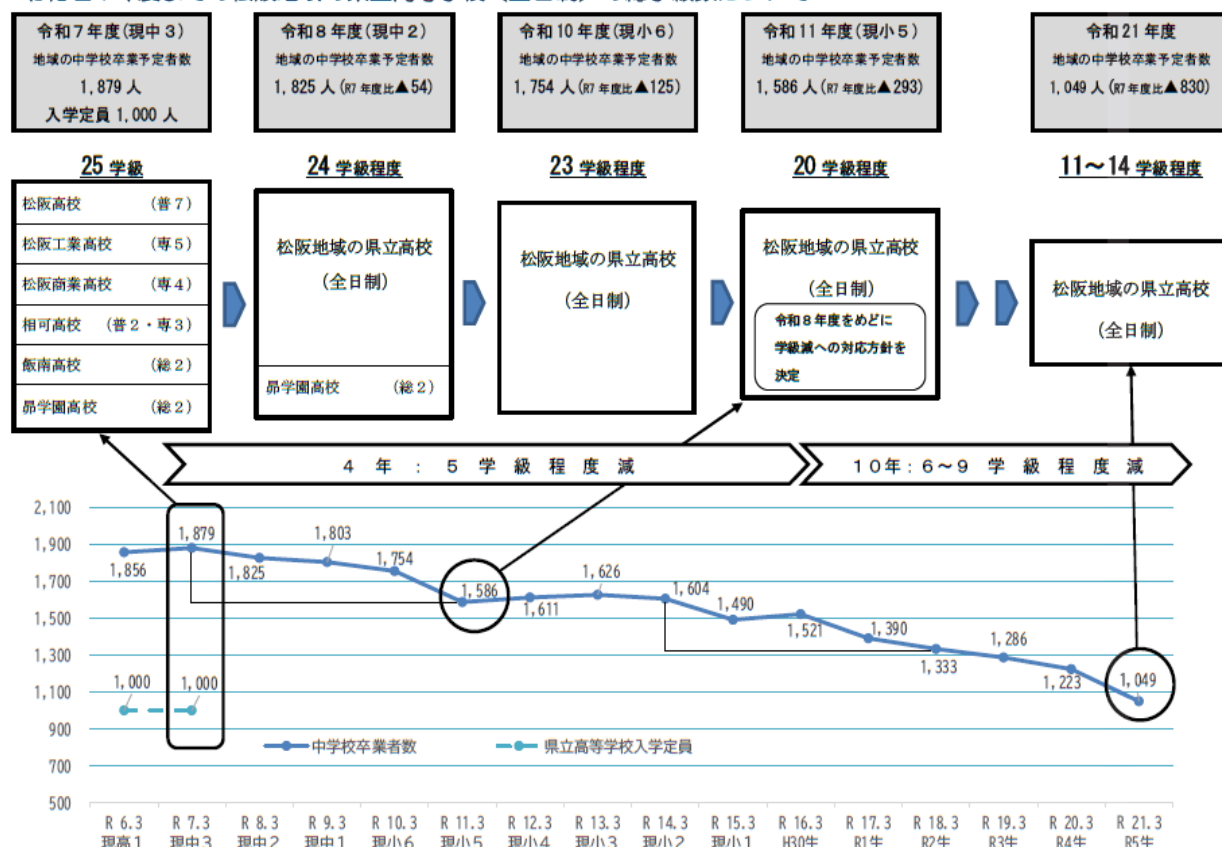
○令和8年度に見込まれる1学級減への対応については、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針となる「基本的な考え方」や「再編を検討するうえで大切にしたいこと」をふまえるとともに、中学生の進路選択に大きな影響を及ぼすことがないよう、統合ではなく、学級減で対応することが望ましい。

【令和10年度・令和11年度】

○2か年で4学級程度と大幅な減少が見込まれることから、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針に加え、次期計画の策定の議論も注視しながら、現計画に基づき再編も含めて協議を進め、令和8年度までに段階的に協議会の方向性をとりまとめる。

<参考：第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会資料より>

令和21年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について



次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

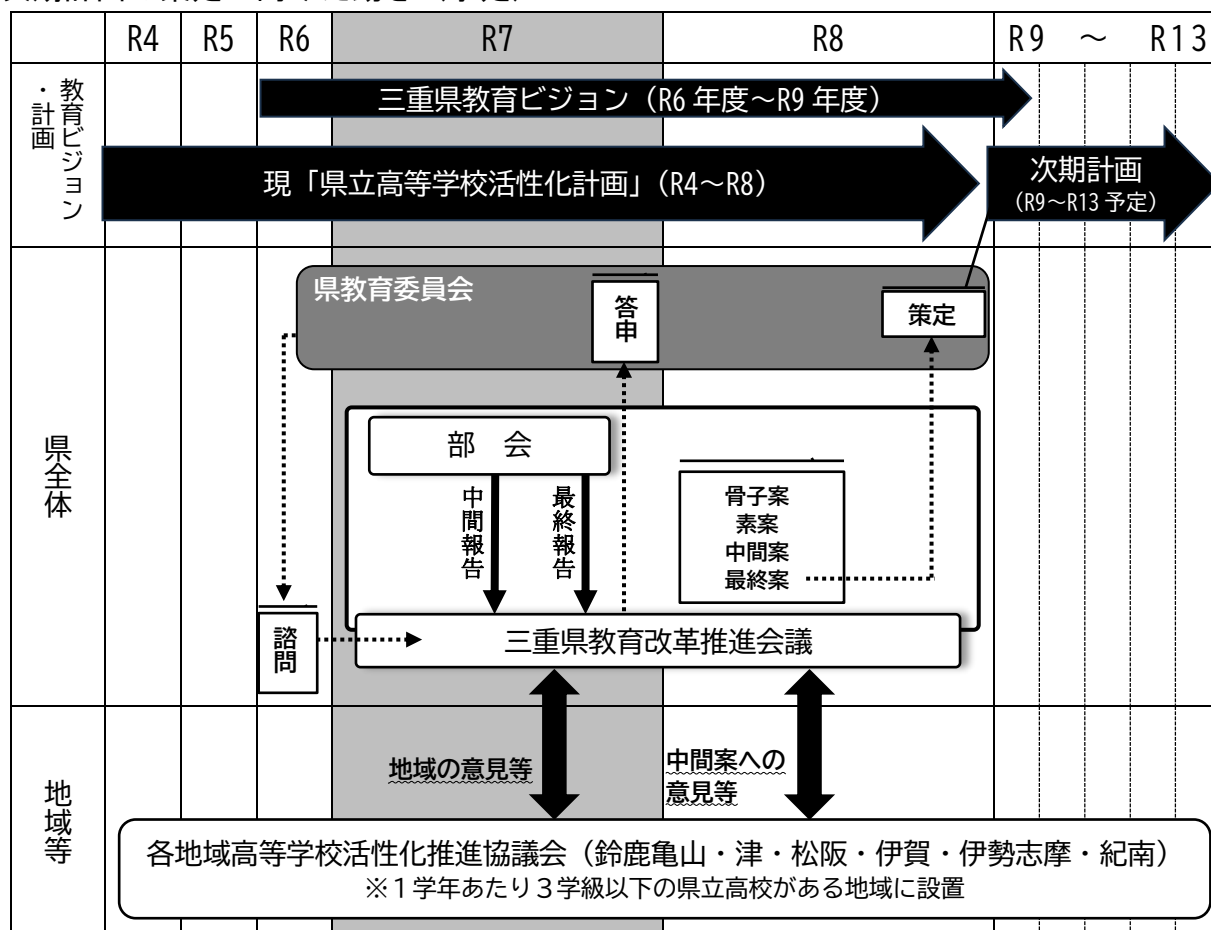
1 三重県教育改革推進会議における審議

現行の県立高等学校活性化計画（以下、「計画」という。）は令和4年から令和8年が計画期間となっていることから、県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議（以下「推進会議」という。）の審議を経て次期計画を令和8年度末に策定します。

令和7年3月に開催された推進会議では、県教育委員会教育長から次期計画の策定に係る県立高校の学び並びに規模及び配置のあり方について諮問され、令和8年3月31日までに報告することとなっています。

また、その審議については、推進会議と併せ、専門的な調査研究を行うための部会（「県立高等学校の在り方調査研究部会」）が設置され、今年度集中的に審議されることとなっています。

2 次期計画の策定に向けた動き（予定）



松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

資料 10

令和7年5月1日 教育政策課調べ

	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
松阪市	卒業生数	1,386	1,457	1,467	1,446	1,442	1,325	1,228	1,210	1,249	1,211	1,093	1,149
	前年度対比		71	10	-21	54	-117	-97	-18	39	-38	-118	56
	R7.3対比					-4	-121	-218	-236	-197	-235	-353	-297
多気郡	卒業生数	458	477	389	433	422	427	349	411	380	388	394	379
	前年度対比		19	-88	44	-11	65	-78	62	-31	8	6	-15
	R7.3対比					-11	-6	-84	-22	-53	-45	-39	-54
小計	卒業生数	1,844	1,934	1,856	1,879	1,810	1,752	1,577	1,621	1,629	1,599	1,487	1,528
	前年度対比		90	-78	23	-69	-52	-175	44	8	-30	-112	41
	R7.3対比					-69	-127	-302	-258	-250	-280	-392	-351
県内合計	卒業生数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
	R7.3対比					-201	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【県立高校（全日制）】

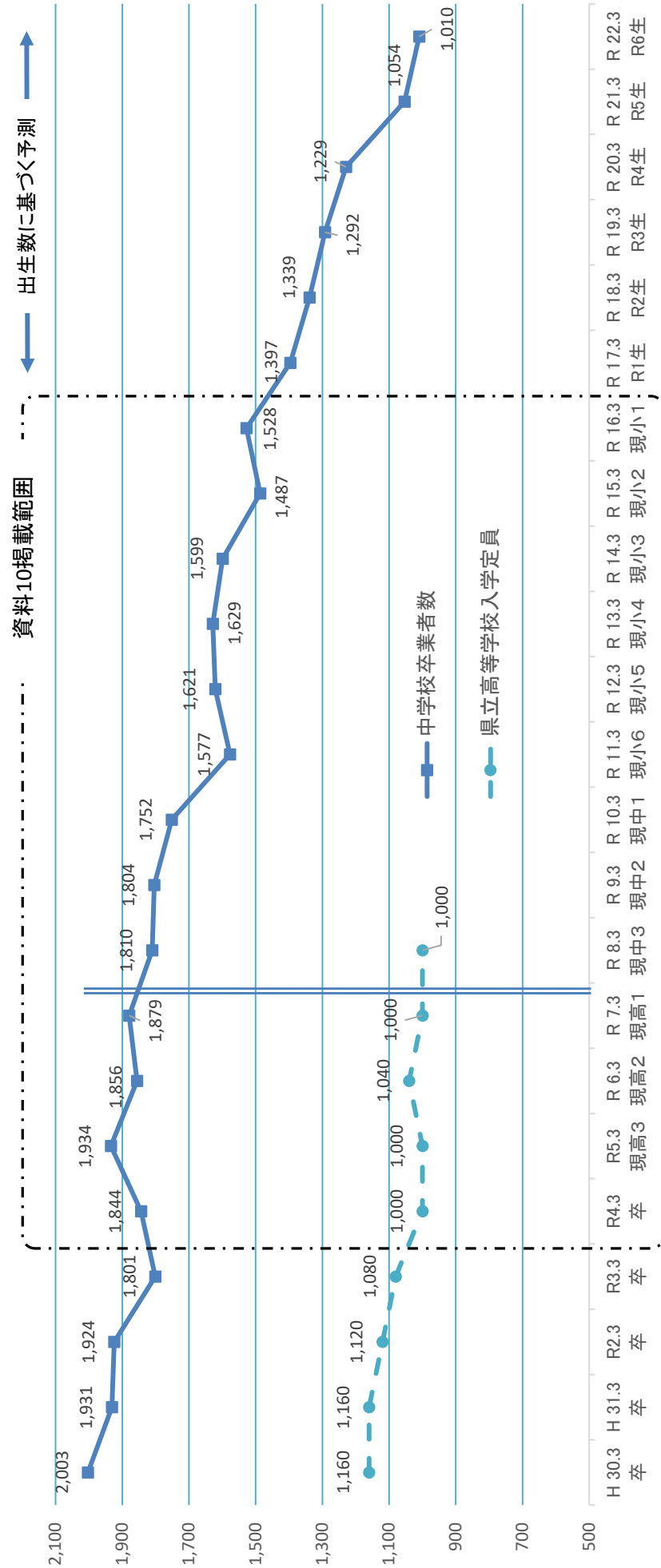
松阪地域	入学定員 (学級数)	1,000 (25)	1,040 (26)	1,000 (25)	1,000 (25)
	欠員数※	30	17	14	5
県内合計	入学定員 (学級数)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (263)	10,240 (258)
	欠員数※	334	342	225	185

【私立高校（全日制）】

三重	入学定員	540	535	530	530
	入学者数	584	563	468	530

※令和7年度入学者数は、三重高校ホームページの記載人数を転記

松阪地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測



【松阪地域の出生数】

	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
松阪市	1,225	1,115	1,089	1,018	979	856	832
多気郡	316	292	264	281	259	209	191
合 計	1,541	1,407	1,353	1,299	1,238	1,065	1,023
予測値	1,528	1,397	1,339	1,292	1,229	1,054	1,010

松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)

資料 1 2

学校名		入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
松阪地域全日制課程	松阪高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	全 2 5 学級 普通科 9 専門学科 1 2 (工業 5) (商業 4) (農業 2) (家庭 1) 総合学科 4	
	松阪工業高校	200	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	松阪商業高校	160	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
	飯南高校	80	郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ							
	相可高校	200	普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
	昂学園高校	80	地域探究、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術							
	三重高校	530	普通科	普通科(ステラコース《特進クラス、選抜クラス》・ナードコース《進学クラス、アスリートクラス》、六年制)						
私立										

○定時制課程 県立 松阪工業高校 40 人 普通科

○通信制課程 県立 松阪高校 200 人 普通科

学校名		入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8	
伊勢志摩地域全日制課程	宇治山田高校	160	普通科	普通科	普通科	普通科					
	伊勢高校	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	伊勢工業高校	160	機械科	機械科	建築科	電気科					
	宇治山田商業高校	160	商業科	商業科	情報処理科	国際科					
	明野高校	160	生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科					
	南伊勢高校 度会校舎	40	普通科								
	鳥羽高校	40	総合学科								
	志摩高校	40	普通科								
	水産高校	80	海洋・機関科	水産資源科							
	皇学館高校	315	普通科(特別進学コース、進学コース)								
私立	伊勢学園高校	230	普通科(特別進学コース、選択コース[情報ビジネス・生活デザイン・進学※]、看護医療コース)								※2年次からの選択コース

○定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120 人 普通科: 午前の部40人、午後の部40人、ものづくり工学科40人(夜間)

○通信制課程 私立 英心高校(伊勢本校) 110 人 普通科: (全日型、水曜、土曜の各コース)

私立 代々木高校 400 人 普通科: (通学コース、通信一般コース等)

○高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140 人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

※大学の普通科には普通科系専門学科を含む

松阪地域の全日制高校の学びの配置状況（令和8年度）

資料13

学校名	学科	松阪地域の学び					その他
		普通	工業	商業	農業	家庭	
松阪	普通（7）	普通（5） 理数（2）					
松阪工業	工業（5）		工業化学（1） 機械（1） 繊維デザイン（1） 自動車（1） 電気工学（1）				
松阪商業	商業（4）			総合ビジネス（3） 国際ビジネス（1）			
相可	普通（2） 農業（2） 家庭（1）	普通（2）			生産経済（1） 環境創造（1）	食物調理（1）	
飯南	総合（2）	総合進学		コンピュータ	郷土・環境		介護福祉
昂学園	総合（2）	地域探究			環境技術		総合スポーツ 美術工芸 生活福祉

【備考】

○（ ）内は学級数を示す

○ 飯南高校と昂学園高校は総合学科の系列のため学級数とはカウントしない。開設科目により、近い学科に分類

○ 学級数は1学年あたりで、1学級40人ベースの学級数として表示

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒)

資料 1 4

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	248	2	3	1	17	271
		91.5%	0.7%	1.1%	0.4%	6.3%	100.0%
松阪工業	工業	29	13	18	130	3	193
		15.0%	6.7%	9.3%	67.4%	1.6%	100.0%
松阪商業	商業	35	9	55	53	4	156
		22.4%	5.8%	35.3%	34.0%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	6	15	41	2	66
		3.0%	9.1%	22.7%	62.1%	3.0%	100.0%
相可	普通	32	13	27	8	0	80
		40.0%	16.3%	33.8%	10.0%	0.0%	100.0%
	農業 家庭	7	4	11	79	1	102
		6.9%	3.9%	10.8%	77.5%	1.0%	100.0%
昂学園	総合	15	3	15	23	4	60
		25.0%	5.0%	25.0%	38.3%	6.7%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	280	15	30	9	17	351
	79.8%	4.3%	8.5%	2.6%	4.8%	100.0%
専門学科計	71	26	84	262	8	451
	15.7%	5.8%	18.6%	58.1%	1.8%	100.0%
総合学科計	17	9	30	64	6	126
	13.5%	7.1%	23.8%	50.8%	4.8%	100.0%
合計	368	50	144	335	31	928
	39.7%	5.4%	15.5%	36.1%	3.3%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

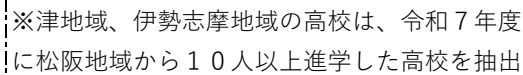
※「その他」は進学待機を含む

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和6年3月卒)

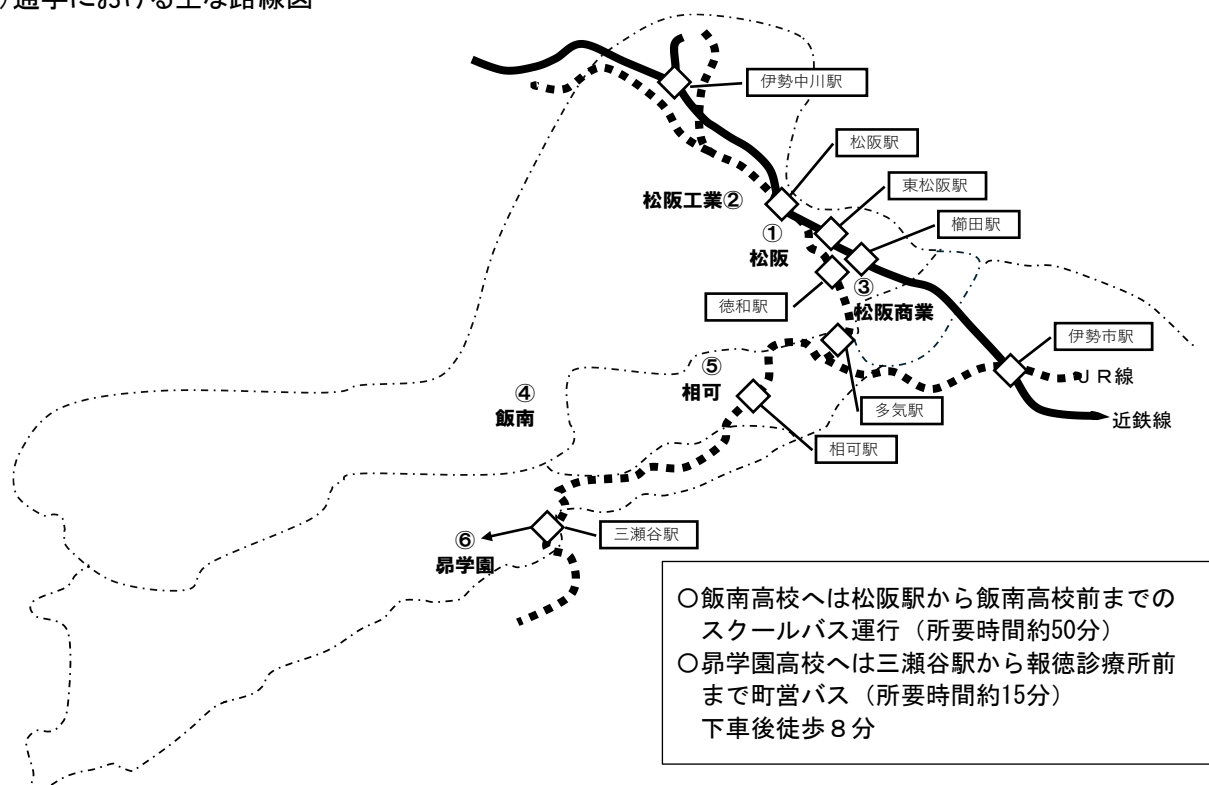
学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	250	2	7	1	14	274
		91.2%	0.7%	2.6%	0.4%	5.1%	100.0%
松阪工業	工業	26	15	19	129	1	190
		13.7%	7.9%	10.0%	67.9%	0.5%	100.0%
松阪商業	商業	43	14	34	62	3	156
		27.6%	9.0%	21.8%	39.7%	1.9%	100.0%
飯南	総合	4	3	12	48	2	69
		5.8%	4.3%	17.4%	69.6%	2.9%	100.0%
相可	普通	32	12	28	4	1	77
		41.6%	15.6%	36.4%	5.2%	1.3%	100.0%
	農業 家庭	9	6	9	91	1	116
		7.8%	5.2%	7.8%	78.4%	0.9%	100.0%
昂学園	総合	11	2	12	20	0	45
		24.4%	4.4%	26.7%	44.4%	0.0%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	282	14	35	5	15	351
	80.3%	4.0%	10.0%	1.4%	4.3%	100.0%
専門学科計	78	35	62	282	5	462
	16.9%	7.6%	13.4%	61.0%	1.1%	100.0%
総合学科計	15	5	24	68	2	114
	13.2%	4.4%	21.1%	59.6%	1.8%	100.0%
合計	375	54	121	355	22	927
	40.5%	5.8%	13.1%	38.3%	2.4%	100.0%

資料15



(1) 通学における主な路線図



(2) 通学方法別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

学校名		通学方法						
		松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
徒歩のみ		22	22	13	12	7	173	249
		2.5%	3.8%	2.8%	5.7%	1.2%	86.1%	8.5%
自転車のみ		384	291	207	24	200	6	1,112
		43.6%	50.1%	43.9%	11.4%	34.3%	3.0%	38.0%
JRのみ		1	47	8	0	69	0	125
		0.1%	8.1%	1.7%	0%	11.8%	0%	4.3%
私鉄のみ		192	96	16	0	0	0	304
		21.8%	16.5%	3.4%	0%	0.0%	0%	10.4%
バスのみ		40	17	0	111	83	7	258
		4.5%	2.9%	0.0%	52.6%	14.2%	3.5%	8.8%
船のみ		0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
JRと	私鉄	4	0	0	0	0	0	4
		0.5%	0%	0%	0%	0.0%	0%	0.1%
	バス	0	6	1	5	17	15	44
		0.0%	1.0%	0.2%	2.4%	2.9%	7.5%	1.5%
	自転車	86	41	58	0	59	0	244
		9.8%	7.1%	12.3%	0.0%	10.1%	0%	8.3%
私鉄と	バス	14	2	1	6	55	0	78
		1.6%	0.3%	0.2%	2.8%	9.4%	0%	2.7%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	自転車	116	54	136	0	17	0	323
		13.2%	9.3%	28.8%	0%	2.9%	0%	11.0%
バスと	船	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	自転車	5	1	3	51	21	0	81
		0.6%	0.2%	0.6%	24.2%	3.6%	0%	2.8%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)		16	4	29	2	55	0	106
		1.8%	0.7%	6.1%	0.9%	9.4%	0%	3.6%
合計		880	581	472	211	583	201	2,928

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
不要	410	307	232	40	248	179	1,416	1,416
	46.6%	52.8%	49.2%	19.0%	42.5%	89.1%	48.4%	48.4%
3,000円以内	47	30	11	0	7	0	95	1,511
	5.3%	5.2%	2.3%	0.0%	1.2%	0%	3.2%	51.6%
5,000円以内	231	129	108	0	53	7	528	2,039
	26.3%	22.2%	22.9%	0.0%	9.1%	3.5%	18.0%	69.6%
7,000円以内	70	65	52	5	50	0	242	2,281
	8.0%	11.2%	11.0%	2.4%	8.6%	0%	8.3%	77.9%
9,000円以内	33	19	20	2	53	4	131	2,412
	3.8%	3.3%	4.2%	0.9%	9.1%	2.0%	4.5%	82.4%
11,000円以内	24	12	18	7	79	8	148	2,560
	2.7%	2.1%	3.8%	3.3%	13.6%	4.0%	5.1%	87.4%
13,000円以内	20	8	4	28	25	3	88	2,648
	2.3%	1.4%	0.8%	13.3%	4.3%	1.5%	3.0%	90.4%
15,000円以内	26	5	17	75	51	0	174	2,822
	3.0%	0.9%	3.6%	35.5%	8.7%	0%	5.9%	96.4%
15,001円以上	19	6	10	54	17	0	106	2,928
	2.2%	1.0%	2.1%	25.6%	2.9%	0%	3.6%	100.0%
合計	880	581	472	211	583	201	2,928	2,928

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
15分以内	174	121	55	22	75	168	615	615
	19.8%	20.8%	11.7%	10.4%	12.9%	83.6%	21.0%	21.0%
30分以内	266	177	147	25	116	13	744	1,359
	30.2%	30.5%	31.1%	11.8%	19.9%	6.5%	25.4%	46.4%
45分以内	208	131	112	59	152	1	663	2,022
	23.6%	22.5%	23.7%	28.0%	26.1%	0.5%	22.6%	69.1%
60分以内	163	91	98	51	122	6	531	2,553
	18.5%	15.7%	20.8%	24.2%	20.9%	3.0%	18.1%	87.2%
90分以内	56	48	45	50	91	10	300	2,853
	6.4%	8.3%	9.5%	23.7%	15.6%	5.0%	10.2%	97.4%
120分以内	11	11	14	4	22	3	65	2,918
	1.3%	1.9%	3.0%	1.9%	3.8%	1.5%	2.2%	99.7%
121分以上	2	2	1	0	5	0	10	2,928
	0.2%	0.3%	0.2%	0.0%	0.9%	0%	0.3%	100.0%
合計	880	581	472	211	583	201	2,928	2,928

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

種別 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
下宿	6	7	9	0	10	0	32
寄宿舎	0	0	0	0	0	166	166
合計	6	7	9	0	10	166	198

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワグナー・フォーゲル）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

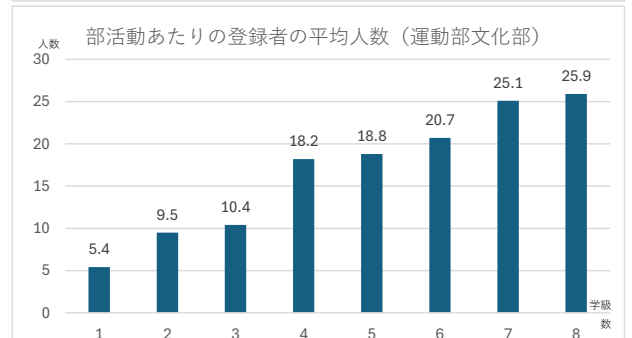
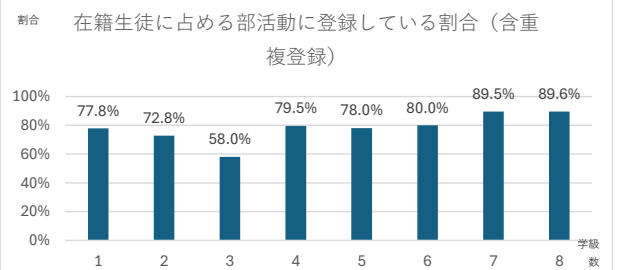
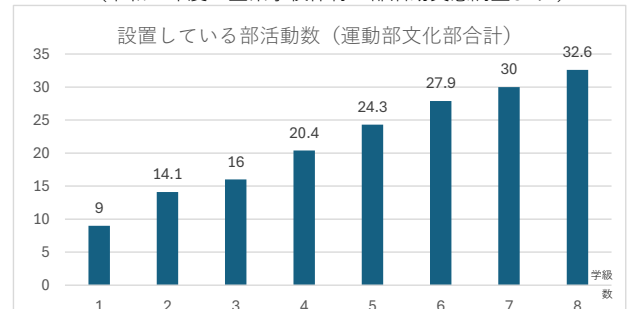
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワグナー・フォーゲル）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



令和 22 年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和 8 年度（現中 3） 地域の中学校卒業予定者数 1, 810 人	令和 10 年度（現中 1） 地域の中学校卒業予定者数 1, 752 人（R8 年度比 ▲58）	令和 11 年度（現小 6） 地域の中学校卒業予定者数 1, 577 人（R8 年度比 ▲233）	令和 15 年度（現小 2） 地域の中学校卒業予定者数 1, 487 人（R8 年度比 ▲323）	令和 22 年度 地域の中学校卒業予定者数 1, 010 人（R8 年度比 ▲800）
---	--	---	---	---

25 学級

24 学級程度

20 学級程度

18 学級程度

10～13 学級程度

松阪高校	（普 7）
松阪工業高校	（専 5）
松阪商業高校	（専 4）
相可高校	（普 2・専 3）
飯南高校	（総 2）
昂学園高校	（総 2）

松阪地域の県立高校
（全日制）

松阪地域の県立高校
（全日制）
遅くとも 3 年前の令和
8 年度までに学級減へ
の対応方針を決定

松阪地域の県立高校
（全日制）

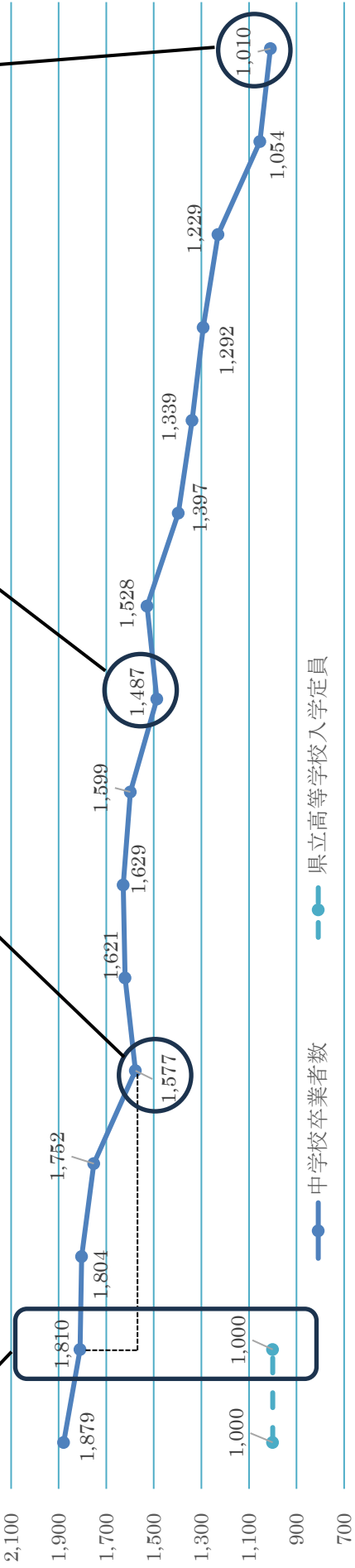
松阪地域の県立高校
（全日制）

3 年

学 級 程 度 減

11 年

学 級 程 度 減



R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3	R15.3	R16.3	R17.3	R18.3	R19.3	R20.3	R21.3	R22.3
現高 1	中 3	中 2	中 1	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	小 1	R1生	R2生	R3生	R4生	R5生	R6生